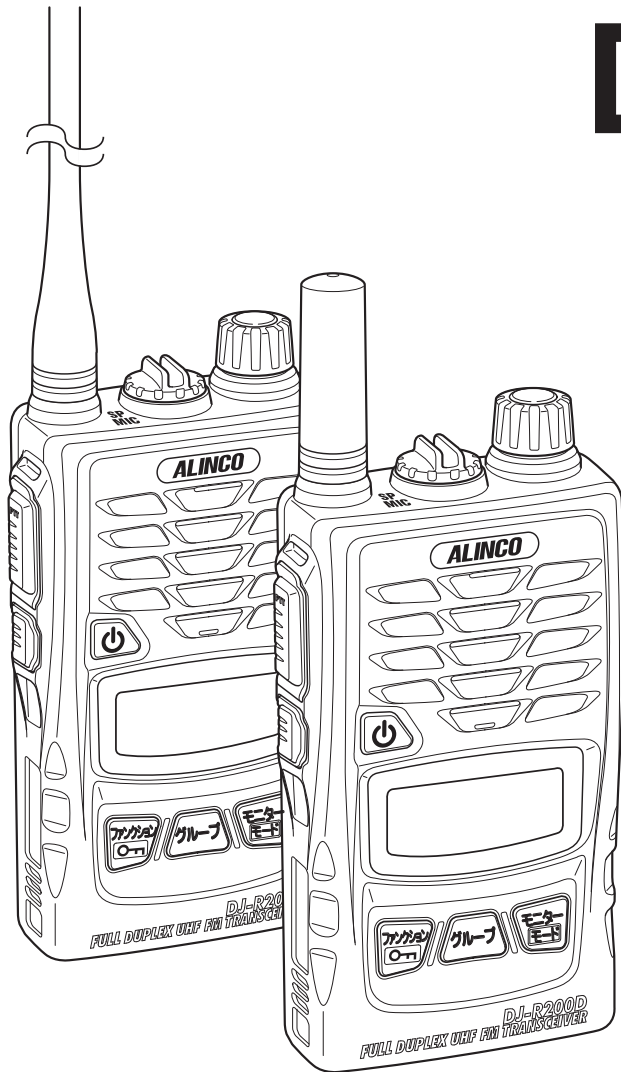
ALINCO

特定小電力ハンディトランシーバー
（総務省技術基準適合品）

# DJ-R200D
# 取扱説明書

RoHS

アルインコのトランシーバーをお買い上げいただきましてありがとうございます。本製品の機能を充分に発揮させ、効果的にご使用いただくため、この取扱説明書をご使用前に最後までお読みください。アフターサービスなどについても記載していますのでこの取扱説明書は大切に保管してください。また、補足シートや正誤表が入っている場合は、取扱説明書と合わせて保管してください。ご使用中の不明な点や不具合が生じたとき、お役に立ちます。
本製品は免許・資格不要の特定小電力無線電話として、各種通信にお使いいただけます。

アルインコ株式会社

# 目次


安全上のご注意 ・・・・・・・・ 1
使用前のご注意 ・・・・・・・・ 6
特定小電力の通信制限について ・・・・・・・・ 7
機能と特長 ・・・・・・・・ 8

1 お使いになる前に ・・・・・・・・ 9
付属品と取り付け方 ・・・・・・・・ 9
電池の入れ方 ・・・・・・・・ 10
充電方法 ・・・・・・・・ 11
各部の名前とはたらき ・・・・・・・・ 16
ディスプレイ ・・・・・・・・ 18
基本操作 ・・・・・・・・ 19

2 通話モードの切り替え ・・・・・・・・ 23
通話モード ・・・・・・・・ 24
その他の通話モード ・・・・・・・・ 27
通話モード一覧 ・・・・・・・・ 30
各モードの操作方法 ・・・・・・・・ 31

3 便利な機能 ・・・・・・・・ 41
キーロック ・・・・・・・・ 42
減電池お知らせ ・・・・・・・・ 42
メモリーモード ・・・・・・・・ 43
緊急通報 ・・・・・・・・ 45
スキャン ・・・・・・・・ 46
フリーチャンネルサーチ ・・・・・・・・ 47
イヤホン断線検知 ・・・・・・・・ 48
テールノイズキャンセラー ・・・・・・・・ 48
リセット ・・・・・・・・ 49

4 セットモード ・・・・・・・・ 50
セットモード一覧 ・・・・・・・・ 50
セットモードの設定方法 ・・・・・・・・ 51
CH/VOL リバース ・・・・・・・・ 52
コンパンダー ・・・・・・・・ 53
秘話 ・・・・・・・・ 53
ループ（第三者受信） ・・・・・・・・ 54
着信バイブレーター ・・・・・・・・ 54
ベル ・・・・・・・・ 55
バッテリーセーブ ・・・・・・・・ 56
オートパワーオフ ・・・・・・・・ 56
ランプ ・・・・・・・・ 57
PTT ホールド ・・・・・・・・ 57
送信出力 ・・・・・・・・ 58
VOX ・・・・・・・・ 58
操作音量 ・・・・・・・・ 59
サウンド ・・・・・・・・ 59
エンドピー ・・・・・・・・ 60
コールバック ・・・・・・・・ 60

5付録 ・・・・・・・・ 61
各チャンネルの送受信周波数 ・・・・・・・・ 61
トーン周波数一覧（グループ番号） ・・・・・・・・ 62
オプション一覧 ・・・・・・・・ 62
故障とお考えになる前に ・・・・・・・・ 63
定格 ・・・・・・・・ 64

# ◆◆◆ 安全上のご注意◆◆◆

本製品を正しく安全にお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損失を未然に防止するために必ずお読みください。誤った使い方で生じる内容を図記号と共に説明しています。その表示と意味は次のようになっています。

| 表　示 | 表示の意味 |
|---|---|
| ⚠ 警 告 | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害の発生が想定される内容を示しています。 |
| ⚠ 注 意 | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。 |

| 表　示 | 表示の意味 |
|---|---|
| | しなければならないことを告げるものです。 |
| | してはいけないことを告げるものです。 |

天災や人災、不測の故障などで生じた損害につきましては、弊社は一切その責任を負いかねますので、予めご了承ください。

# ⚠ 警告

## ■ 使用環境・条件

本製品を使用できるのは、日本国内のみです。国外では使用できません。
This product is permitted for use in Japan only.

本製品を人命救助などの目的で使用して、万一、故障・誤動作などが原因で人命が失われることがあっても、製造元および販売元はその責任を負うものではありません。

本製品どうし、または他の無線機とともに至近距離で複数台使用しないでください。お互いの影響により故障・誤動作・不具合の原因となります。

本製品を何らかのシステムや電子機器の一部として組み込んで使用した場合、いかなる誤動作・不具合が生じても製造元および販売元はその責任を負うものではありません。

弊社指定以外のオプションや他社のアクセサリー製品を接続しないでください。故障の原因となります。

自動車などの運転中に使用しないでください。交通事故の原因となります。
運転者が使用するときは車を安全な場所に停めてからご使用ください。携帯型無線機を運転者が走行中に使用すると道路交通法違反で罰せられます。

電子機器の近くでは使用しないでください。電波障害により機器の故障・誤動作の原因となります。

内部から漏れた液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、中継局周辺では使用しないでください。
運行の安全や無線局の運用、放送の受信に支障をきたしたり、各種機器が故障・誤動作する原因となります。
病院や医療機関では、医療機器などに支障がないか十分に確認の上、管理者の許可のもとご使用ください。
無線機を使用したことによって、いかなる誤動作・不具合が生じても、当社は一切その責任を負いかねますのでご了承ください。

本製品は防爆仕様ではありません。引火性ガスが発生する場所では使用しないでください。静電気などによる発火事故の原因になります。

## ■ トランシーバー本体の取り扱いについて

イヤホンを使用する場合、あらかじめ音量を下げてください。聴力障害の原因になることがあります。
イヤホンを耳に装着する際、静電気が放電することがありますのでご注意ください。

本製品は調整済みです。特定小電力トランシーバーをユーザーが改造、変更することは法律で禁止されています。
サイズ違いのアンテナに交換することはできません。

布や布団で覆ったりしないでください。熱がこもり、ケースが変形したり、火災の原因となります。直射日光を避けて風通しの良い状態でご使用ください。

水をかけたり、水が入ったりしないよう、また故意にぬらさないようにご注意ください。故障の原因となります。

防浸保護には条件があります。
水などでぬれやすい場所（風呂場など）では使用しないでください。故障の原因となります。

近くに小さな金属物や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。

外部電源には弊社指定オプションの AC アダプター（EDC-122）、シガーケーブル（EDH-33）をご使用ください。車のシガーソケットから直接 DC12V を接続しないでください。故障の原因になります。

## ■ 充電器の取り扱いについて

指定以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

充電器の AC プラグのコードをタコ足配線しないでください。加熱・発火の原因となります。

ぬれた手で充電器の AC アダプターに触れたり、抜き差ししないでください。感電の原因となります。

充電器の AC アダプターを、AC コンセントに確実に差し込んでください。AC アダプターの刃に金具などが触れると、火災・感電・故障の原因となります。

充電器の AC アダプターの刃に、ほこりが付着したまま使用しないでください。ショートや加熱により火災・感電・故障の原因となります。

## ■ 異常時の処置について

以下の場合は、すぐ本体の電源を OFF にして、電池を取り外し、充電器をご使用の場合は、AC アダプターを AC コンセントから抜いてください。異常な状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。修理はお買い上げの販売店、または当社サービス窓口にご連絡ください。お客様による修理は、違法ですから、絶対にお止めください。

---

■本体が熱くなったり、煙が出たとき。
■異音や異臭がしたとき。
■落としたり、ケースを破損したりしたとき。
■内部に水や異物が入ったとき。
■ AC アダプターのコードが傷んだとき（芯線の露出や断線など）

雷が鳴り出したら安全のため本体の電源を OFF にし、充電器をご使用の場合は AC アダプターを AC コンセントから抜いて、ご使用をお控えください。

## ■保守・点検

本体や充電器のケースは、開けないでください。けが・感電・故障の原因となります。内部の点検・修理は、お買い上げの販売店または当社サービスセンターにご依頼ください。製造番号ラベルをはがさないでください。製造番号がわからないと保証サービスをお受け頂くことができません。

# ⚠注 意

## ■ 使用環境・条件

テレビやラジオの近くで使用しないでください。電波障害を与えたり、受けたりすることがあります。

湿度の高い場所、ほこりの多い場所、風通しの悪い場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

ぐらついた台の上や傾いた所、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

グループトーク機能を使用する際、特定のグループ番号において異なる機種との間で通話が途切れる場合があります。このような時は違うグループ番号を選んで通話をお試しください。これはグループトーク機能に使われるトーン信号の検出精度や仕組みが機種によって異なるためであり故障ではありません。

直射日光があたる場所や炎天下の車内、車のヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所には置かないでください。内部の温度が上がり、ケースや部品が変形・変色したり、火災の原因となることがあります。

調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

電波を使用している関係上、無線機器の通話は第三者による傍受を完全に阻止することはできません。
そのため、機密を要する重要な通話に使用することはお勧めできません。

マイク部にシール類を貼らないでください。
相手に音声が聞こえなくなります。

## ■ トランシーバー本体の取り扱いについて

アンテナを誤って目などにささないようにご注意ください。

イヤホン / マイクロホン端子にはオプションのイヤホン / マイクロホン以外は接続しないでください。故障の原因となることがあります。

インバーターを搭載した電子機器や照明器具の周辺、ハイブリッドカーや電気自動車の車内や周辺ではノイズの影響で電波障害を受けることがあります。

磁気カードを無線機の近くに置かないでください。磁気カードのデータが消去されることがあります。

長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず本体の電源を OFF にして、電池を取り外し、充電器をご使用の場合は AC アダプターを AC コンセントから抜いてください。

本製品は電源 OFF でも待機電流により電池が放電します。非常用に備蓄するなど長期間ご使用にならないときは電池を取り外してください。

衝撃や水分、異物の混入などによる故障の場合は、保証対象外になります。

## ■ 充電器の取り扱いについて

充電器の AC アダプターを抜くときは、コードを引っ張らないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。必ず AC アダプターを持って抜いてください。

充電器の AC アダプターを熱器具に近づけないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

## ■ 保守・点検

汚れた場合は柔らかいきれいな布で乾拭きしてください。
ベンジン、シンナー、アルコール、洗剤などを使うと外装や文字が変質する恐れがあります。
洗浄剤などを直接無線機に吹き付けないでください。機器内部に浸透し故障の原因となります。

イヤホンマイクなどのケーブルはときどき湿らせた布で拭いてください。汗や皮脂はケーブルを劣化させる原因になります。

お手入れの際は、安全のため必ず本体の電源を OFF にして、電池を取り外し、充電器をご使用の場合は、AC アダプターを AC コンセントから抜いてください。

製造番号ラベルをはがさないでください。製造番号がわからないと保証サービスをお受け頂くことができません。

# ◆◆◆ 使用前のご注意◆◆◆

## ■ ご使用環境

高温、多湿、直射日光の当たるところ、粉じんの多い場所は避けてお使いください。

## ■ 分解しないで

特定小電力トランシーバーの改造、変更は法律で禁止されています。分解したり内部を開けることは絶対にしないでください。

## ■ ご使用禁止場所

本機は総務省技術基準適合品ですが、使用場所によっては思わぬ電波障害を引き起こすことがあります。次のような場所では使用しないでください。
（航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、中継局周辺など）

日本国内でのみご使用ください。
This product is permitted for use in Japan only.

## ■ 通信距離

通信できる距離は周囲の状況によって大きく異なります。

- 海上、山頂など条件のよい所：　2km またはそれ以上
- 河原など障害物のない平地：　５００m ～１km 程度
- 見通しのよい道、郊外の住宅地：５００m 程度
- 市街地のような障害物の多い所：２００m 程度

**注意**

- 同時通話は交互通話に比べ約 3 割短くなります。
- ショートアンテナはロングアンテナに比べ約 3 割短くなります。
- 送信出力 Lo パワーは Hi パワーに比べ半分程度に短くなります。
- 建屋内の縦階層間の通話はフロアが障害物になるため、直線では十数メートルの近距離であっても通話できないことがあります。このような場合は中継器を設置することで通話エリアを広げることができます。
- 人体を含む障害物やアンテナの向き、歩くなど移動による影響を受けると、通話距離は短くなることがあります。
- トンネルのような閉鎖的空間では UHF 電波伝播の特性により近距離でも通話できないことがあります。

## ■ 外郭保護性能について

付属の防水キャップまたは弊社指定の純正防水型アクセサリーを本体に装着することで、IP67 相当の耐塵防水になります。ただし、常に水しぶきや海水、油脂、薬品がかかる環境や、鉄粉が飛散するような環境での使用で発生する不具合については保証しておりません。また、すべての製品を出荷前に検査してその性能を保証するものではない「相当品」ですので、水没、流水での洗浄は絶対におやめください。濡れたときは乾いた布で手早く拭き取り、電池を抜いて内部をよく乾燥させてください。防水素材は時間が経つと劣化しますので、弊社では外郭保護性能についても製品と同じ保証期間とさせていただいております。

## ■バッテリーセーブについて

電池の消耗を防ぐ機能です。受信待ち受け状態で約５秒間キー操作がないとこの機能が動作します。信号を受信するか、キー操作がおこなわれるとバッテリーセーブは解除されます。バッテリーセーブ動作時に信号を受信すると、通話の始めが途切れる場合がありますが、異常ではありません。

## ■ 障害物

本機に採用されている電波は直進性が高いため、間にビルや橋脚、または山や丘陵等の障害物があると通信できる距離が短くなります。

# ◆特定小電力の通信制限について◆

特定小電力トランシーバーの通信に関する制限事項について説明します。

### 3 分制限（3 分以上は連続で送信できません）………………

10 秒前に警告音が鳴ります。通話時間が合計 3 分になると自動的に送信は停止します。中継通信の場合も連続した中継動作が 3 分を越えるとタイムアウトします。

**注意** 3 分の通信時間制限により、自動的に通信が停止した後は、約 2 秒たたないと次の送信はできません。

### キャリアセンス（受信中は送信できません）……………………

一定の強さ以上の信号を受信しているときは [PTT] キーを押しても送信できません。受信中に [PTT] キーを押すとアラーム音が鳴り、送信できないことをお知らせします。

**注意** サウンド機能を OFF にしているとアラーム音は鳴りません。

# ◆◆◆ 機能と特長◆◆◆

- 交互通話 20CH、同時通話／中継用 27CH（合計 47CH）を搭載
- ビジネスユースに耐える耐塵防浸（IP67 相当）＆頑丈ボディ
- 単三乾電池 2 本および専用リチウムイオンバッテリー対応のコンパクトボディ
- 用途に応じて選べる 2 種類（L: ロング／ S: ショート）のアンテナ
- 外部電源端子より AC アダプターやシガーケーブルでの運用が可能
- 大きなスピーカー音量
- 多彩な通話モードとメモリーチャンネル搭載
- イヤホン断線検知機能
- 受信中の「サー」というバックノイズを低減するコンパンダー
- 受信終了時の「ザッ」音を低減するテールノイズキャンセラー
- 設定をお知らせする音声ガイダンス
- 受信をお知らせする着信バイブレーター
- 異常を知らせる緊急通報機能
- 中継器を遠隔設定するリモコンモード＊
- 衝撃や転倒を検知するショックセンサー＊

＊ 機能の説明は本書に記載しておりません。弊社ホームページをご覧ください。
ホームページ　http://www.alinco.co.jp/「電子事業部」

**注意** 一部の通話モードや機能は本製品どうし、または対応した弊社機器間においてのみご使用いただけます。

# 1 お使いになる前に

本機をお使いになる前にお読みください。

## 付属品と取り付け方

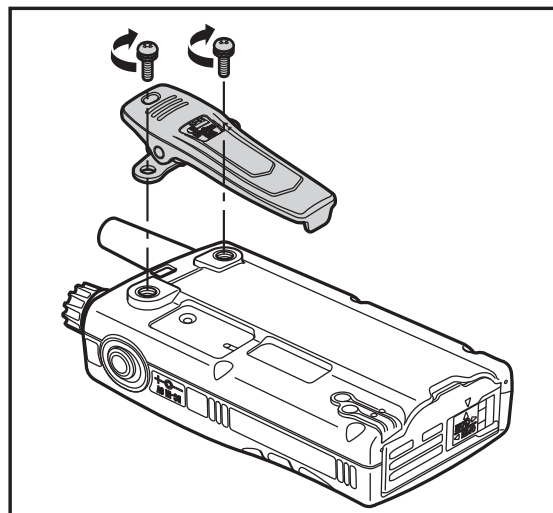
付属品をご確認ください。

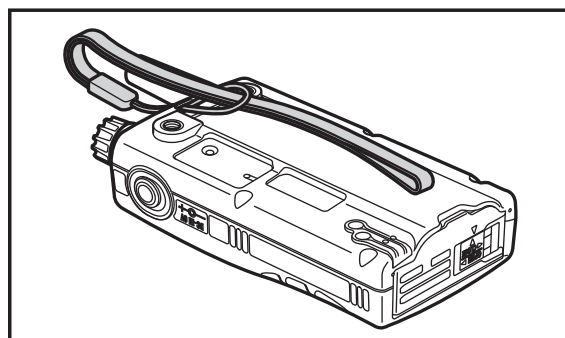
□ ベルトクリップ（ネジ２本）
□ ハンドストラップ
□ 取扱説明書（本書）
□ 保証書

注意　保証書にご購入日の日付が記載されていないときは、領収書やレシートを保証書といっしょに保管してください。ご購入日を証明できる書類がないと保証サービスは無効になりますのでご注意ください。

### ■ ベルトクリップの取り付け

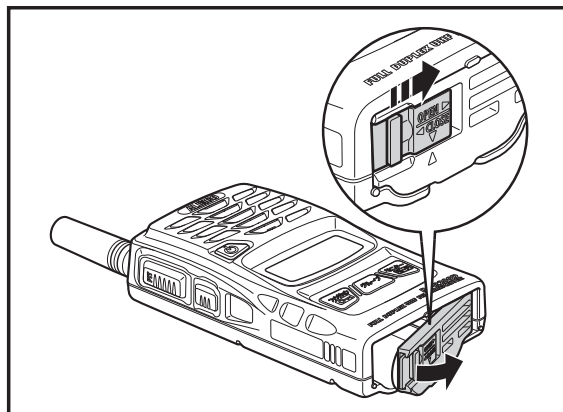
ベルトクリップを付属のネジ２本で本機の背面に取り付けます。

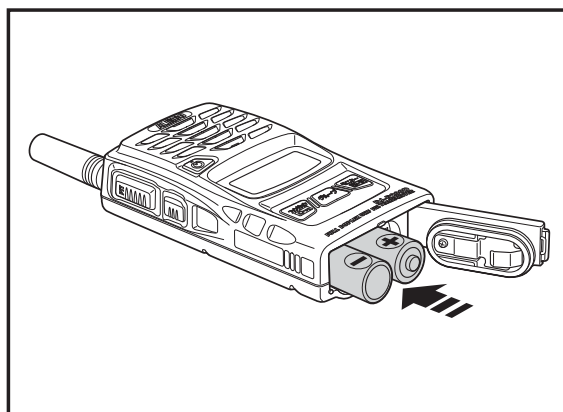
注意　ベルトクリップでトランシーバーを体の横や背中に取り付けてください。イヤホンマイクなどをご使用のときは余ったケーブルを束ねてください。かがんだときにプラグやアンテナに過度な力が加わらないようご注意ください。定期的にネジにゆるみがないか点検してください。ベルトクリップは消耗品です。スペアー部品（EBC-43）として販売していますので、お買い求めの際は販売店にご相談ください。

### ■ ハンドストラップの取り付け

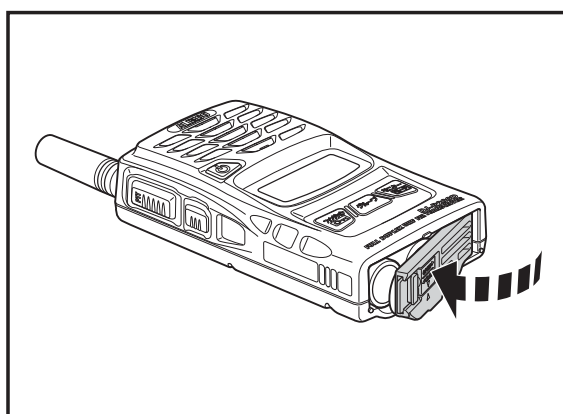
本機背面上部にあるストラップ用の通し穴に取り付けます。

# ・・・・・・・・・ 電池の入れ方 ・・・・・・・・・

単三形乾電池２本またはオプションのバッテリーパック（EBP-60）を装着します。

## ❶ カバーを開ける

ロックレバーを OPEN ▷側へスライドさせながらカバーを開けます。

## ❷ 電池を入れる

単三乾電池２本を、ケース内側の「＋／－」の表示にしたがって装着してください。
バッテリーパックをお使いの際は、バッテリーパックの突起位置を確認して端子が奥になるように装着してください。

## ❸ カバーを閉める

カバーを本体上方向へ押さえて閉めてください。

**注意**

- ＋／－の向きを間違わないようにご注意ください。
- 電池は同じ種類の新しいものをご使用ください。
  大容量アルカリ電池の使用をお勧めします。
- 市販の充電池は形状や電気仕様が異なるためご使用になれません。
- 本機を長期間使用しないときは電池を取り外してください。

# ・・・・・・・・・ 充電方法 ・・・・・・・・・

## ● バッテリーパックと充電器について

バッテリーパック、充電器および関連するオプション製品は下記のとおりです。

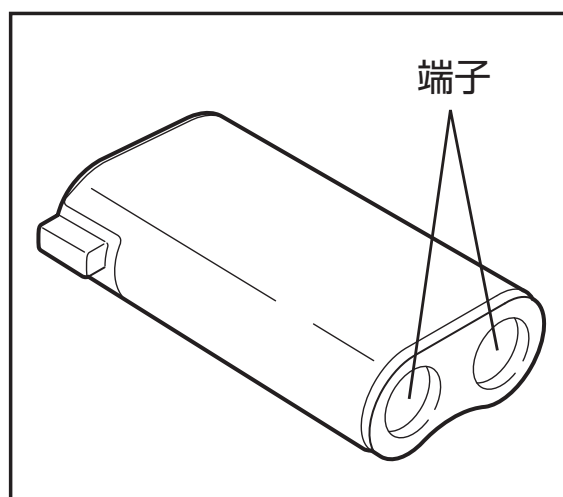
リチウムイオンバッテリーパック　：EBP-60（3.7V-1200mAh）
シングル充電スタンド　：EDC-131
シングル充電器セット　：EDC-131A（AC アダプター付属）
AC アダプター　：EDC-122
ツイン充電器セット　：EDC-167A（AC アダプター付属）
ツイン連結スタンド　：EDC-167R
連結用 AC アダプター　：EDC-162
（EDC-167A/R 連結時必要）

**注意**

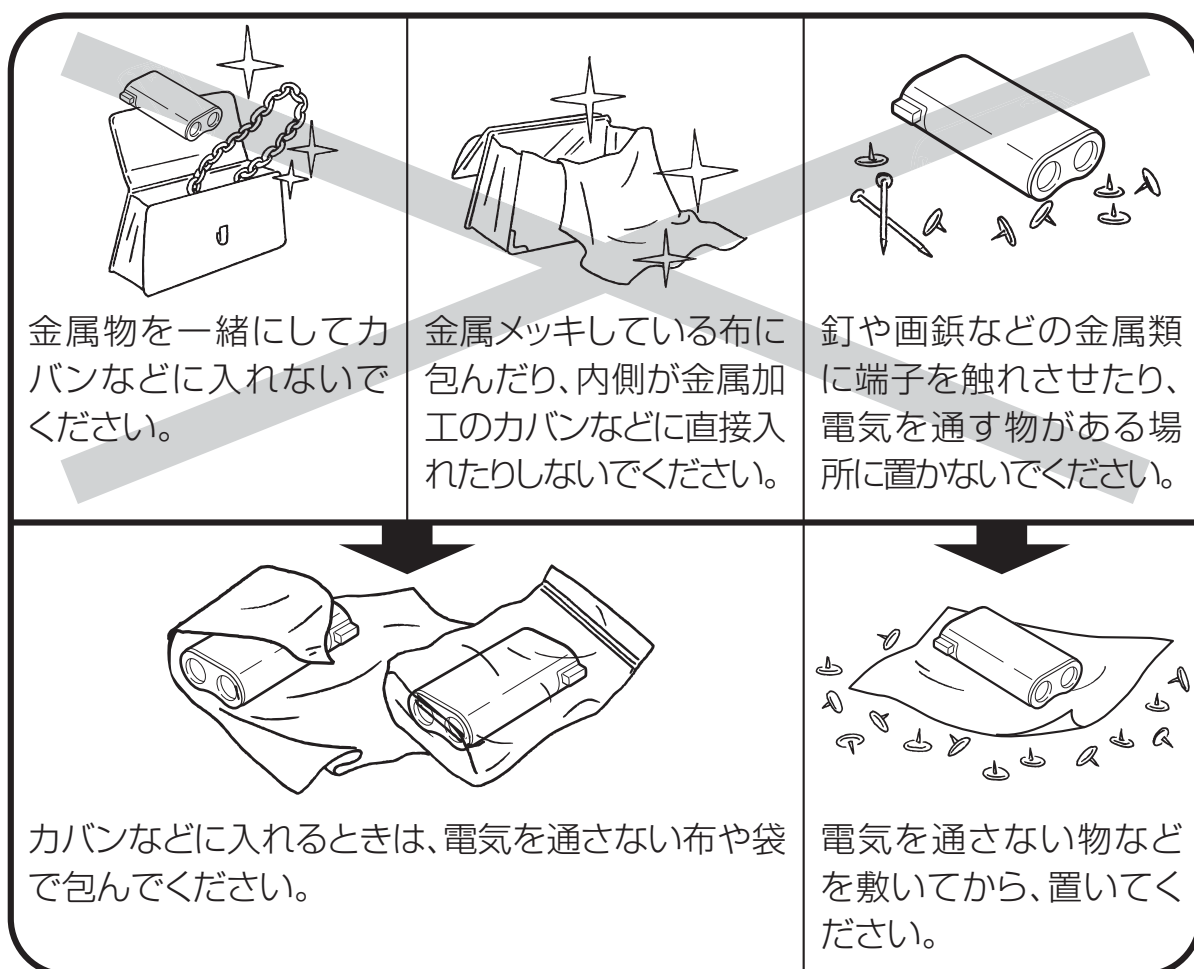
・オプションの バッテリーパックは出荷時には十分には充電されていません。お買い上げ後に充電してからご使用ください。
・充電は 0℃～ 40℃の温度範囲内でおこなってください。
・バッテリーパックの改造、分解、火中・水中への投入は絶対にしないでください。発熱、破裂などの恐れがあり大変危険です。
・バッテリーパックの端子は絶対にショートさせないでください。機器の損傷や発熱による火災、火傷の原因になることがあります。
・継続的な充電や放電状態での放置はバッテリーパックの劣化を早める原因になることあります。
・バッテリーパックの保存は、-5℃～ 35℃の範囲で湿度が低く乾燥した場所を選んでください。それ以外の温度や湿度が高い場所では、液漏れや金属部分のサビの原因になりますので避けてください。
・バッテリーパックは消耗品です。所定の時間充電しても使用時間が著しく短い場合は寿命を迎えています。新しいものにお取替えください。

## ■ バッテリーパックの取り扱いについて

バッテリーパックを持ち運ぶときは端子をショートさせないようご注意ください。
大電流が流れて火災、火傷の原因になることがあります。

端子

## ■ バッテリーパックの保管について

バッテリーパックを保管するときは、以下のことにご注意ください。

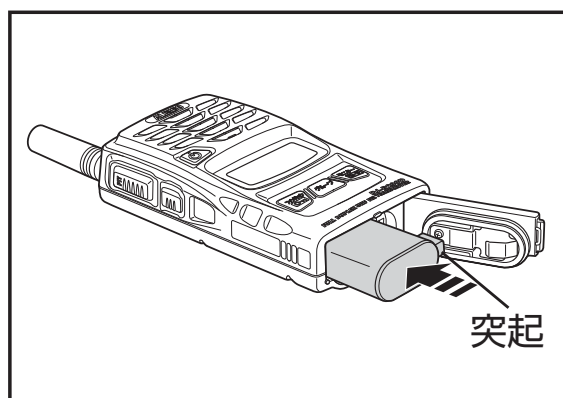
| | | |
|---|---|---|
| 金属物を一緒にしてカバンなどに入れないでください。 | 金属メッキしている布に包んだり、内側が金属加工のカバンなどに直接入れたりしないでください。 | 釘や画鋲などの金属類に端子を触れさせたり、電気を通す物がある場所に置かないでください。 |
| カバンなどに入れるときは、電気を通さない布や袋で包んでください。 | | 電気を通さない物などを敷いてから、置いてください。 |

## ■ バッテリーパックの充電方法

### ● AC アダプターによる充電方法

本機にはリチウムイオンバッテリーパック（EBP-60）用の充電回路が内蔵されています。

**1** 本機にバッテリーパックを装着します

バッテリーパックの突起位置を確認して、端子が奥になるように装着してください。

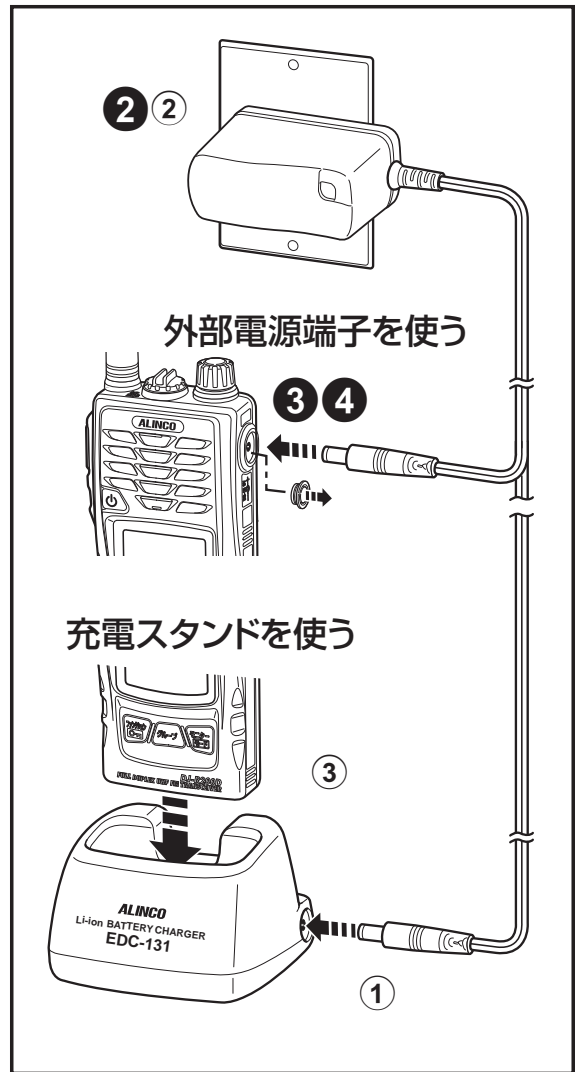
突起

❷ AC アダプターを家庭用コンセント AC100V へ接続します

❸ トランシーバーの電源を切ります。

❹ 外部電源端子の防水キャップを取り外し AC アダプターのプラグを接続します。
充電が開始されトランシーバーのディスプレイに「CHRGE」が表示されます。
充電が完了するとディスプレイに「FULL」が表示されます。

注意 トランシーバーの電源を入れたままでも充電できますが、充電中または充電完了をお知らせする表示がされません。
外部電源端子の防水キャップを取り外した場合は紛失しないようご注意ください。
外部電源を接続しているときは耐塵防浸にはなりません。

外部電源端子を使う

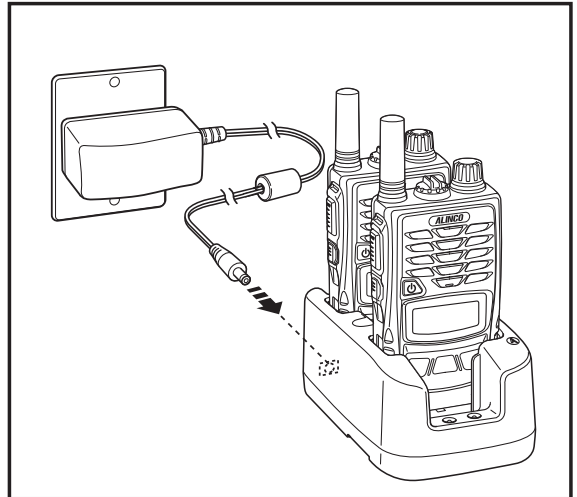
充電スタンドを使う

## ● シングル充電器セット（EDC-131A）の使用方法

① AC アダプターのプラグを充電スタンドの電源端子へ接続します。
② AC アダプターを家庭用コンセント AC100V へ接続します。
③ トランシーバーの電源を切って充電スタンドのポケットへ挿入します。
充電が開始されトランシーバーのディスプレイに「CHARGE」が表示されます。充電が完了するとディスプレイに「FULL」が表示されます。

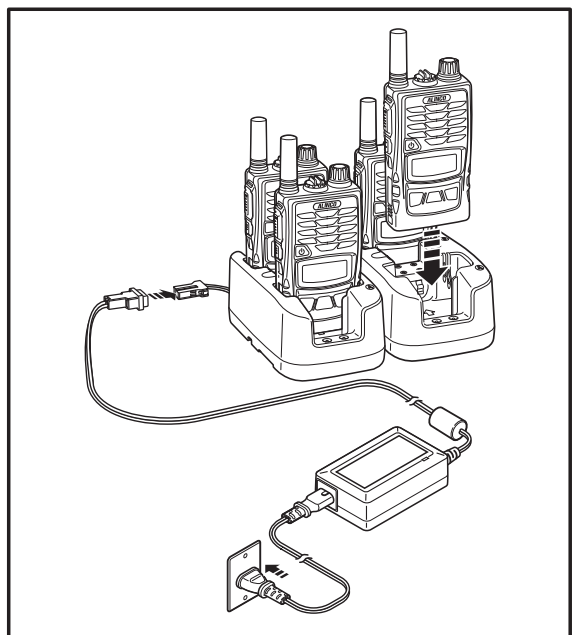
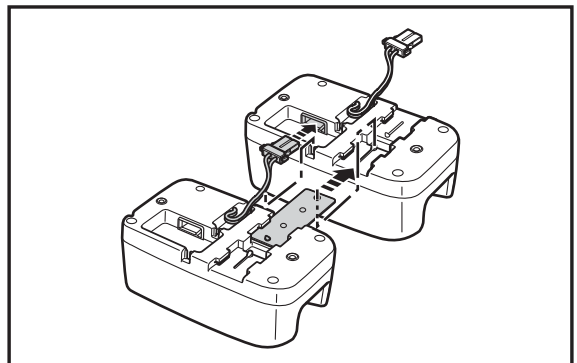
注意 充電器セット（EDC-131A など）に付属している AC アダプターは充電専用です。送受信音声にノイズが混入するため通話にはご使用になれません。

## ● ツイン充電器セット（EDC-167A）の使用方法

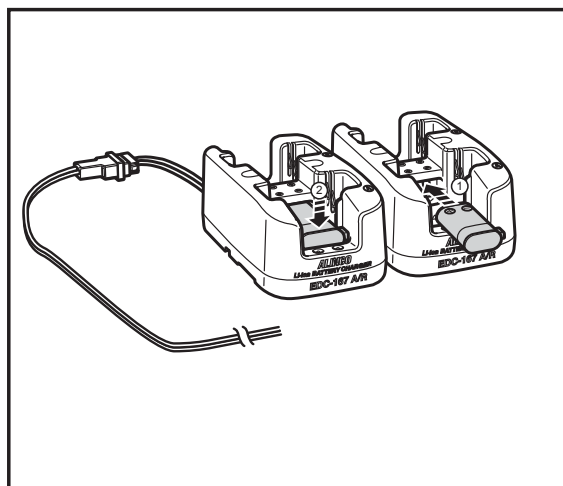
2 台のトランシーバーを同時に充電できます。

① AC アダプターのプラグを充電スタンドの電源端子へ接続します。
② AC アダプターを家庭用コンセント AC100V へ接続します。
③ トランシーバーの電源を切って充電スタンドのポケットへ挿入します。
充電が開始され充電スタンドの赤ランプが点灯するとともに、トランシーバーのディスプレイに「CHARGE」が表示されます。
充電が完了すると赤ランプが消灯し、トランシーバーのディスプレイに「FULL」が表示されます。

## ● ツイン連結スタンド（EDC-167R）の使用方法

充電スタンドを４台まで連結し、最大で８台のトランシーバーを同時に充電できます。

① 充電スタンドどうしを連結します。
充電スタンド裏面を連結プレートで接続します。
② 充電スタンド裏面のコネクタを接続します。
③ 一端の充電スタンドと連結用 AC アダプター（EDC-162）のコネクタを接続します。
④ AC アダプターを家庭用コンセント AC100V へ接続します。
⑤ トランシーバーの電源を切って充電スタンドのポケットへ挿入します。
充電が開始され充電スタンドの赤ランプが点灯するとともに、トランシーバーのディスプレイに「CHARGE」が表示されます。
充電が完了すると赤ランプが消灯し、トランシーバーのディスプレイに「FULL」が表示されます。

## ● バッテリーパック単品の充電方法

ツイン充電器（EDC-167A/R）を使用してリチウムイオンバッテリーパック（EBP-60）単品を充電できます。

① バッテリーパックの端子側を充電スタンドの矢印方向へスライドさせて装着します。
充電が開始されると充電スタンドの赤ランプが点灯し、完了すると消灯します。

メモ
- 空のリチウムイオンバッテリーパックを満充電するのに要する時間は約３時間です。
- 充電するときはトランシーバーの電源を切ってください。
- トランシーバーと充電器の充電端子はときどき乾いた布で掃除してください。汚れていると接触不良の原因になります。

注意
トランシーバーやバッテリーパックをツイン充電器の前方のポケットに挿入すると赤色ランプが点灯するが後方のポケットに挿入すると点灯しない、あるいはその逆の動作をすることがあります。
充電開始、完了を決定する回路の個体差によりこのような動作をすることがありますが異常ではありません。
充電器の赤色ランプが点滅したときは AC アダプターのプラグを接続し直してください。
点滅が続く場合はバッテリーパックが寿命を迎えているため新しいものにお取り替えください。

## ■ AC アダプターでの運用について

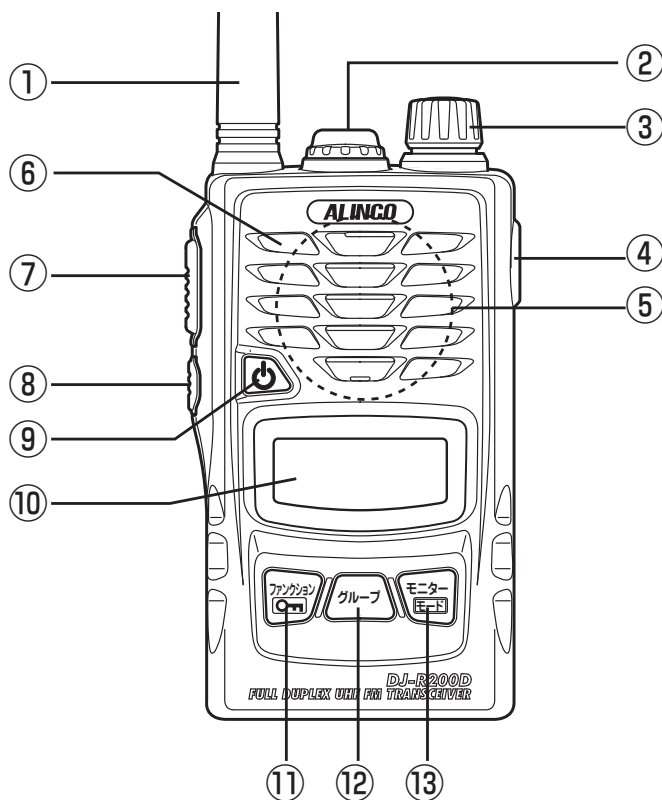
外部電源として AC アダプター EDC-122 を常用する場合は、過充電による劣化を防ぐためバッテリーパックは取り外しておくことをお勧めします。

AC アダプター EDC-122 で運用中に AC 電源（AC100V）が停電しその後復旧したときは、本機は自動的に停電前の状態に復帰します。

AC アダプターを使用しているとき送受信音声にノイズが混入する場合は、AC アダプターとトランシーバーを離したりコードの引き回しを変えてください。ノイズが低減することがあります。

# ・・・・・・・・・ 各部の名前とはたらき ・・・・・・・・・

本機の各部の名前とそのはたらきを説明します。

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
ALINCO
ファンクション
グループ
モニター
モード
DJ-R200D
FULL DUPLEX UHF FM TRANSCEIVER
⑪ ⑫ ⑬

| | 説　明 | はたらき |
|---|---|---|
| ① | アンテナ | アンテナは外れないようになっています。 |
| ② | イヤホン／マイク端子 | オプションのイヤホンマイクなどを接続します。接続するときはプラグを奥までしっかりとねじ込んでください。<br>使用しないときは防水のためキャップをねじ込んでください。 |
| ③ | ダイヤル | チャンネル、音量、グループ番号の選択やセットモード設定に使用します。ダイヤルを回してチャンネルを選択します。ダイヤルを押すと音量、グループ番号の選択、F 点灯状態でダイヤルを押すとセットモードの設定ができます。 |
| ④ | DC-IN | 外部電源接続端子です。オプションのACアダプターやシガーライターケーブルを接続します。オプションのバッテリーパックを装着して充電することができます。 |
| ⑤ | スピーカー | 受信音が鳴ります。 |
| ⑥ | マイク | 送信するときに話します。マイクと口もとは約5センチ離してください。 |
| ⑦ | [PTT] キー | 送信するときは押しながらマイクに向かって話します。 |

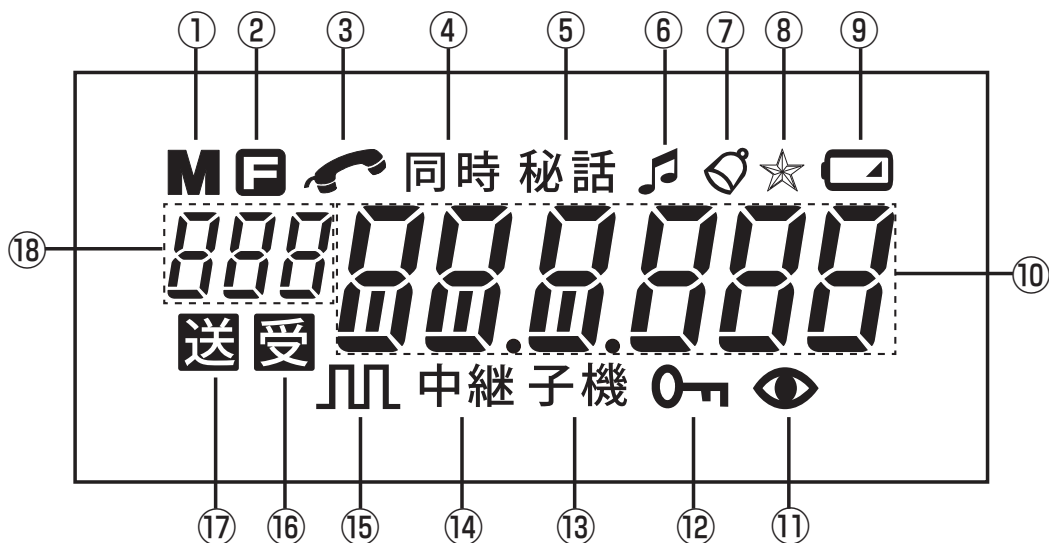
| | 説　明 | はたらき |
|---|---|---|
| ⑧ | [ フック（A/B、サーチ）] キー | 同時通話電話モードで応答するときに押します。<br>中継モード、中継子機モード時に F 点灯状態では周波数帯（A/B）が切り替わります。 |
| ⑨ | [ 電源 ⏻ ] キー | 約 2 秒間押して電源を ON/OFF します。 |
| ⑩ | ディスプレイ | チャンネルや音量、各種設定内容を表示します。 |
| ⑪ | [ ファンクション／ 🔑（ロック）] キー | 通話モードの切り替えやセットモードなど各種設定の開始に使用します。約 2 秒間押し続けるとキーロックができます。 |
| ⑫ | [ グループ ] キー | グループトーク機能に使用します。メモリーモードの呼び出し、書き込みにも使用します。 |
| ⑬ | [ モニター（モード）] キー | 受信信号が弱く音声が途切れるときに使用します。F 点灯状態では通話モードの切り替えに使用します。約 2 秒押すとスキャンを開始します。 |

## ・・・・・・・ キー操作の表記について ・・・・・・・

本書の説明で「押します」とはキーやダイヤルを押したあとすぐに指を離すことを指します。

「約 2 秒間押す」「長く押す」「長押しする」とは機能が動作するまで押し続けることを指します。

## ディスプレイ

①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
M F 同時 秘話
888 88.8.888
送 受 中継 子機
⑱ ⑩ ⑰ ⑯ ⑮ ⑭ ⑬ ⑫ ⑪

| | 説　明 |
|---|---|
| ① | メモリーモード時に点灯します。 |
| ② | ［ファンクション］キーを押すと点灯します。 |
| ③ | 電話のように使用できる同時通話時に点灯します。 |
| ④ | 同時通話モード時に点灯します。 |
| ⑤ | 秘話機能設定時に点灯します。 |
| ⑥ | コンパンダー機能設定時に点灯します。 |
| ⑦ | ベル機能設定時に点灯します。 |
| ⑧ | バイブレーター機能設定時に点灯します。 |
| ⑨ | 電池電圧が低下すると点灯、点滅します。 |
| ⑩ | チャンネルやグループ番号、セットモード項目を表示します。 |
| ⑪ | ショックセンサーモード時に点灯します。機能説明は弊社ホームページをご覧ください。 |
| ⑫ | キーロック中に点灯します。 |
| ⑬ | 子機として使用する各モード時に点灯します。 |
| ⑭ | 中継器または中継子機の各モード時に点灯します。 |
| ⑮ | 中継器リモコンモード時に点灯します。 |
| ⑯ | 受信中に点灯します。 |
| ⑰ | 送信中に点灯します。 |
| ⑱ | モード番号、周波数帯、メモリー番号を表示します。 |

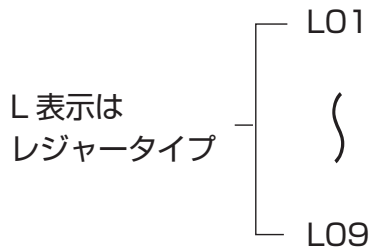
**注意**　単三形乾電池を使用しての同時通話や中継動作中に、ディスプレイ表示が薄くなることがありますが内部回路の動作仕様であるため異常ではありません。

## ■ チャンネル表示について

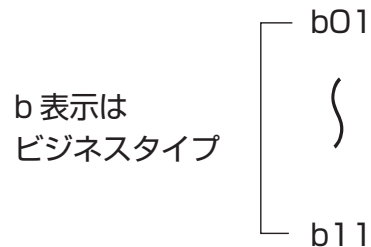
### ● 交互通話（単信）モード 1

レジャー、ビジネス両方の 20 チャンネルを搭載しています。

L 表示は
レジャータイプ

L01
〜
L09

L 表示のチャンネルでは、従来のレジャータイプ（9 チャンネル機）と通話できます。

b 表示は
ビジネスタイプ

b01
〜
b11

b 表示のチャンネルでは、従来のビジネスタイプ（11 チャンネル機）と通話できます。

### ●中継、同時通話（半複信、複信）モード 1 以外

レジャー、ビジネス両方の 27 チャンネルを搭載しています。

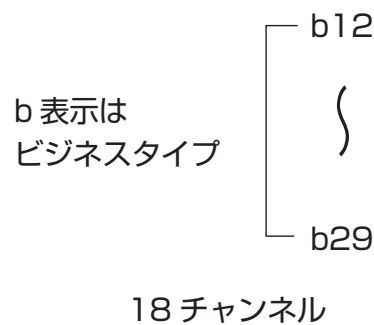
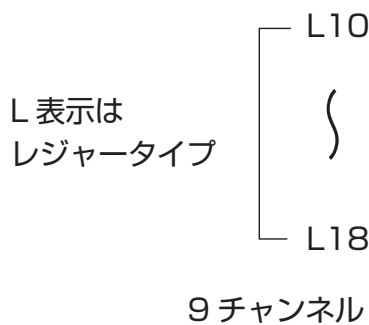
L 表示は
レジャータイプ

L10
〜
L18

9 チャンネル

b 表示は
ビジネスタイプ

b12
〜
b29

18 チャンネル

# 基本操作

本機の基本となる操作を説明します。

## ■ 電源を入れる

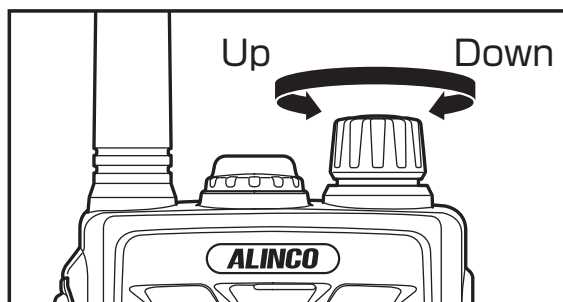
［電源 ⏻］キーを約 2 秒間押します。
電源を切るときも同じ操作をします。

約2秒間押し続けます

ファンクション　グループ　モニター

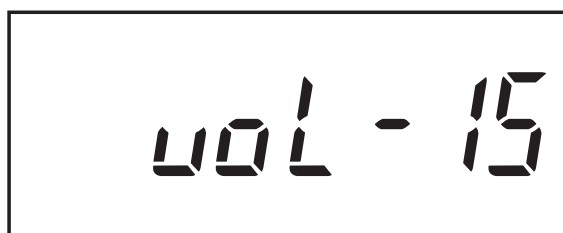
## ■ チャンネルを設定する

ダイヤルを回して相手機と同じチャンネルに合わせます。L（レジャー）、b（ビジネス）の表示にご注意ください。

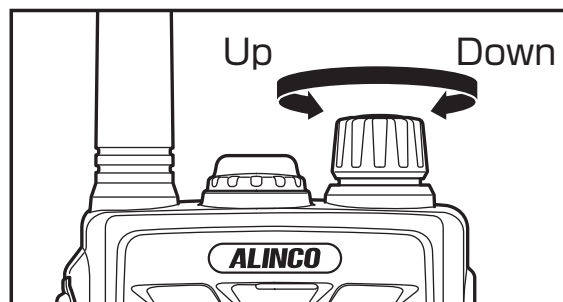
Up Down

## ■ 音量を調整する

### ❶ ダイヤルを押す

ディスプレイに初期状態の音量レベル「voL-15」が表示されます。

voL - 15

### ❷ 音量レベルを調整する

音量レベルの表示中にダイヤルを回すと音量が増減できます。
音量調整は 0 ～ 30 までの 31 段階です。
[ モニター ] キーを押すと「ザー」というノイズが聞こえ音量調整の目安になります。

Up Down

### ❸ 音量レベルを選択する

適切な音量レベルを選択し [PTT] キーを押して設定を完了します。
→受信待ち受けに戻ります。
各キーの無操作状態が約 5 秒続いたときは自動的に設定を完了します。

メモ　セットモードの CH/VOL 選択機能で、チャンネル設定と音量調整の手順を逆にすることができます。

## ■ 受信する

信号を受信するとディスプレイの 受 が点灯しスピーカーから相手の声が聞こえます。
適切な音量レベルに調整してください。

## ■ 送信する

[PTT] キーを押しながらマイクに向かって話します。

押すと送信します
離すと受信します

## ■ 設定を完了する

通話モードの切り替えや各種設定を完了するときは [PTT] キーを押してください。

## ■ グループトーク機能

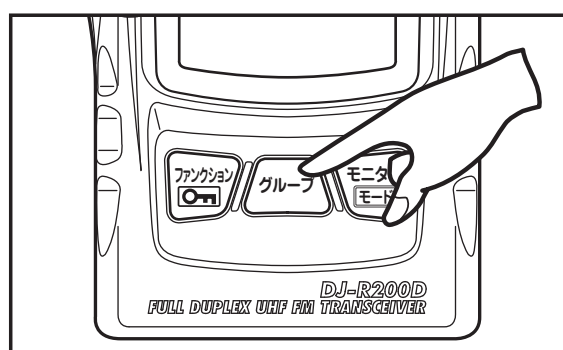
同じグループ設定の人とだけ通話したいときは、グループトーク機能を使用します。
グループ番号は 50 通りの中からひとつを選択してください。
初期状態は 01 番に設定されており一般的によく使用されています。混信を避けるため 01 番以外に設定されることをお勧めします。

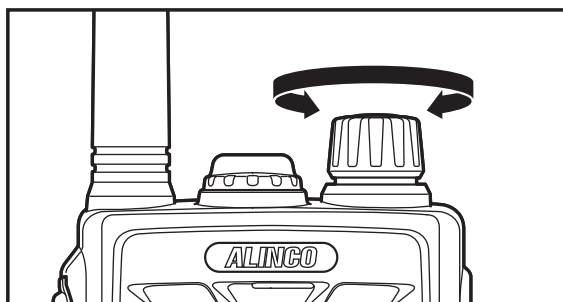
### ❶ [グループ] キーを押す

→グループ番号が点灯します。

### ❷ ダイヤルを 2 回押す

→グループ番号が点滅します。

点滅
1 L01-01
子機

## ❸ グループ番号を選択する

グループ番号が点滅中にダイヤルを回しグループ番号を選択します。

## ❹ 設定を完了する

[PTT] キーを押して設定を完了します。
各キーの無操作状態が約 5 秒続いたときは自動的に設定を完了します。

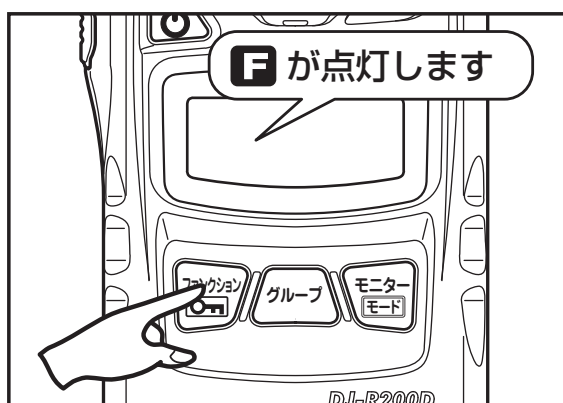
# 2 通話モードの切り替え

DJ-R200D で使用できる通話モードの概要と操作方法を紹介します。

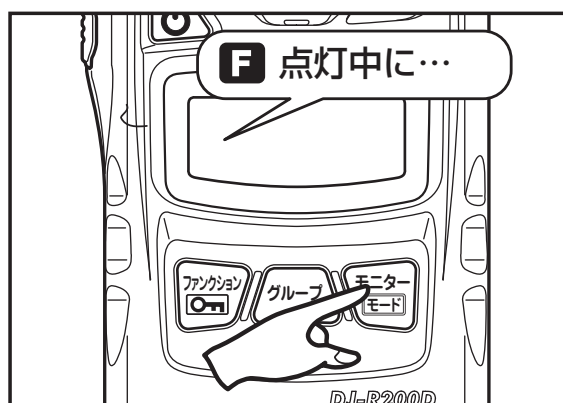
## ・・・・・・・・ 通話モードの切り替え ・・・・・・・・

工場出荷状態ではもっとも基本的なモード 1 交互通話（単信）に設定されています。通話モードの切り替え方法について説明します。

❶ ［ファンクション］キーを押す

→ F が点灯します。



❷ F 点灯中に［モード］キーを押す

→モード番号が点滅します。



❸ 通話モードを選択する

ダイヤルを回し通話モードを選択します。
→モード番号が変わります。

### ❹ 設定を完了する

[PTT] キーを押して設定を完了します。各キーの無操作状態が約 5 秒続いたときは自動的に設定を完了します。

押すと設定が完了します

## ・・・・・・・・・ 通話モード ・・・・・・・・・

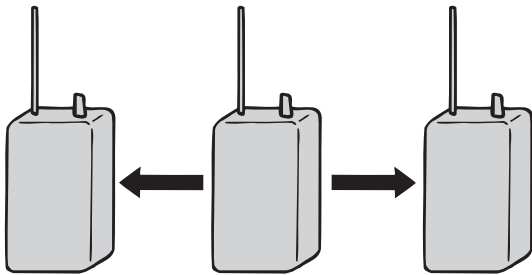
DJ-R200D に搭載されている通話モードの概要を紹介します。
ここではよく使用する通話モードについて説明します。

メモ　その他の通話モードや高度な使用方法については弊社ホームページをご覧ください。

メモ　通話モード番号は弊社の従来製品と統一しています。

### ● モード 1：交互通話（単信）

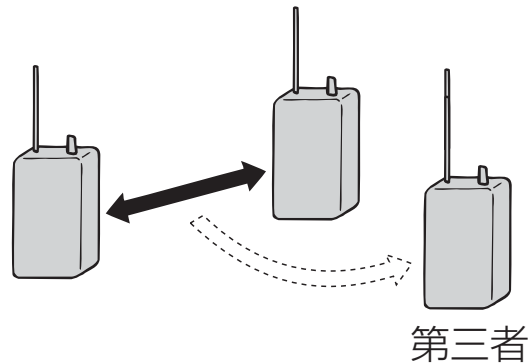
もっとも基本的な交互通話（単信）モードです。工場出荷状態で電源を入れると、このモードになります。送信するときは［PTT］キーを押して通話します。周波数構成が同じであれば、他の特定小電力トランシーバーとも通話できます。

**使用チャンネル：L01 ～ L09、b01 ～ b11**

## ●モード 2：同時通話（複信）

電話のように会話ができる同時通話モードです。本モードは 1 対 1 の通話ですが、ループ機能設定時には第三者も通話を聞くことができます。

**使用チャンネル：L10 ～ L18、b12 ～ b29**

メモ 送信するときは交互通話と同じように [PTT] キーを押して通話しますが、電話のように呼び出し応答する「電話タイプ」に切り替えることができます。

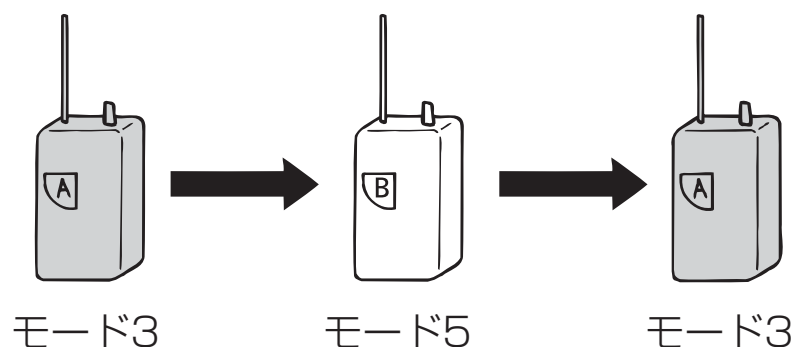
注意 同時通話においては必ずオプションの外部マイク（ヘッドセットやイヤホンマイク）などをご使用ください。スピーカーマイクはハウリングが起こるためご使用になれません。

第三者

## ●モード 3：中継子機（半複信）

半複信方式の中継器にアクセスする子機モードです。本機のモード 5 などの中継器を介することで、直接では電波が届かない相手と通話することができます。周波数構成が同じであれば、他の特定小電力トランシーバーとも中継器を介して通話できます。

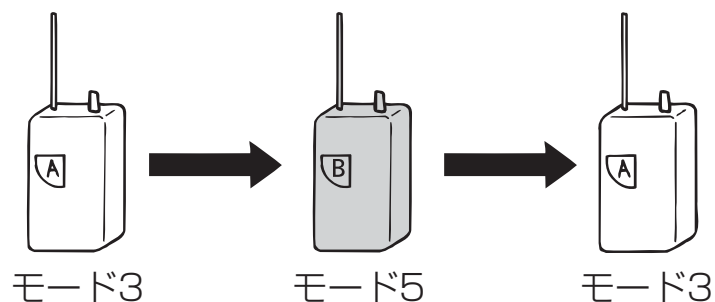
**使用チャンネル：L10 ～ L18、b12 ～ b29**

A B A

モード3 モード5 モード3

### ●モード５：中継器（半複信）

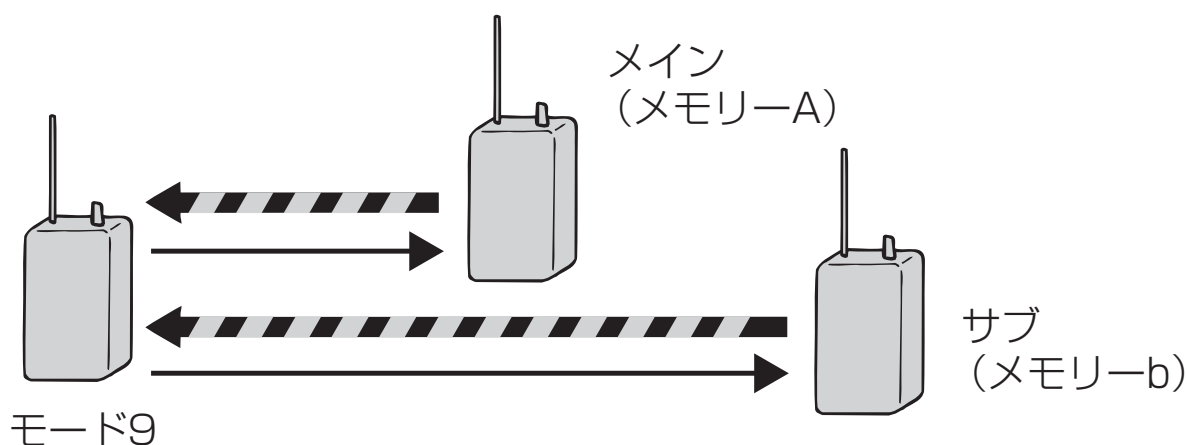
半複信方式の中継器として使用するモードです。本機のモード３中継子機でアクセスします。

**使用チャンネル：L10 ～ L18、b12 ～ b29**

モード3　モード5　モード3

### ●モード９：デュアルオペレーション

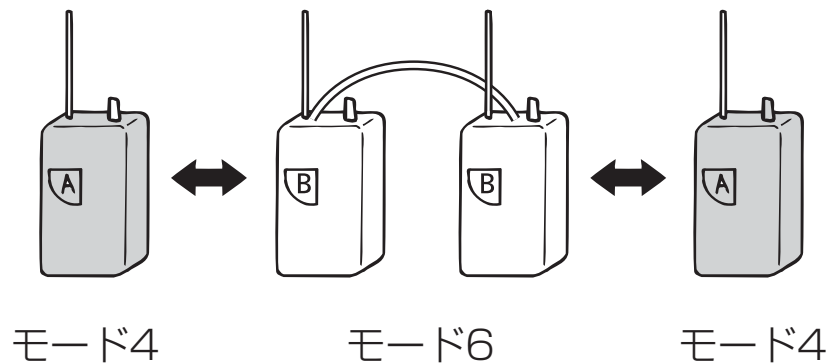
メイン / サブの２つのチャンネルを交互に受信し、そのどちらとも通話できるモードです。本モードを使用するときは、あらかじめメモリーチャンネル A、b への登録が必要です。

**使用チャンネル：L01 ～ L09、b01 ～ b11/**
**L10 ～ L18、b12 ～ b29**

メイン
（メモリーA）
サブ
（メモリーb）
モード9

# ・・・・・・・・・ その他の通話モード ・・・・・・・・・

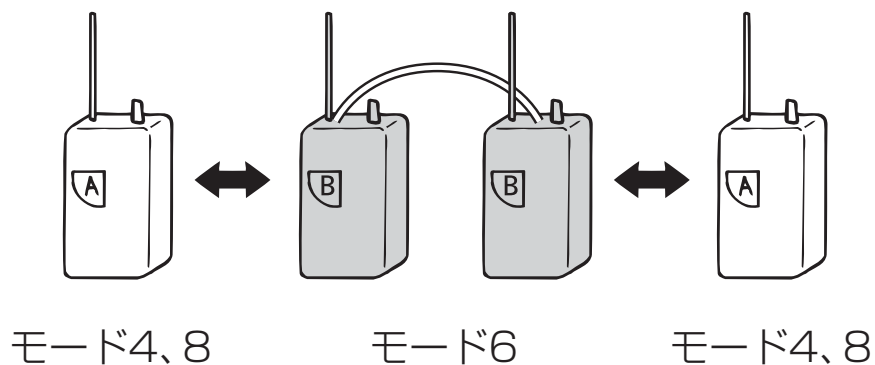
その他の通話モードの概要を紹介します。
これらの機能は通話モード変更操作で選択できますが、使用方法は本書に記載していないため弊社ホームページをご覧ください。
ホームページ　http://www.alinco.co.jp/「電子事業部」

## ●モード４：複信中継子機

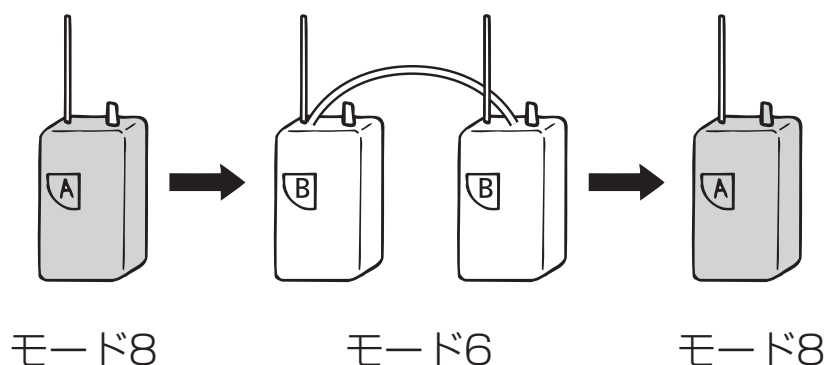
直接では電波が届かない相手と中継器を介して同時通話をする子機モードです。中継器にはモード６を使用します。

モード4　　モード6　　モード4

## ●モード６：複信（連結）中継器

複信（半複信）方式の中継器モードです。モード４、モード８の子機でアクセスします。

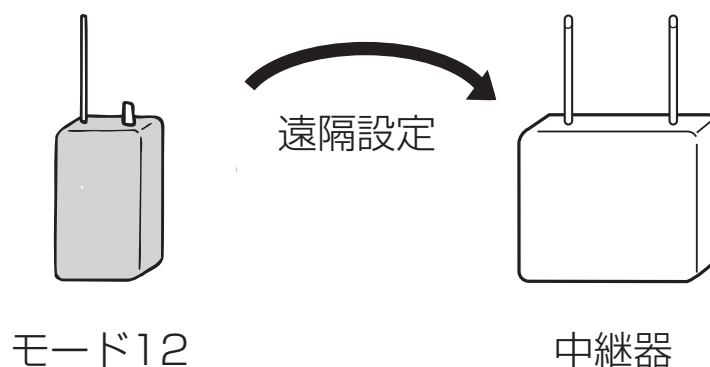
モード4、8　　モード6　　モード4、8

## ●モード８：半複信連結中継子機

直接では電波が届かない相手と中継器を介して交互通話をする子機モードです。
中継器にはモード６を使用します。

モード8　モード6　モード8

## ●モード１２：中継器リモコン

本機をリモコンとして中継器のチャンネルやグループなどを電波で遠隔設定する機能です。

遠隔設定

モード12　中継器

## ●モード１３：ショックセンサー

本機には振動や衝撃を検知するセンサーを内蔵しています。
無線機を使用している作業者の転倒を検知したり、簡易的な防犯用途に応用することができます。振動や衝撃を検知すると相手機にアラームや音声ガイダンスでお知らせします。

## ●モード 14：連続・交互通話（送信休止時間短縮）
## ●モード 15：連続・同時通話（送信休止時間短縮）

異なる 2 つのチャンネルを自動的に切り替えて連続通話時の送信休止時間を短縮するモードです。

交互通話、同時通話いずれも同様の動作をします。送信出力 Hi（10mW）設定で 3 分送信 2 秒休止の通信制限をなるべく気にせず通話したいときにお試しください。通常は同じチャンネルで連続通話すると 3 分ごとに 2 秒間送信を中断しますが、タイムアウト直前に別のチャンネルに自動的に切り替えることで通話を継続します。

切り替えるチャンネルが空いているかキャリアセンスをおこなうため 3 分ごとに約 0.5 秒間通話が中断します。

本機能の連続通話は電波法や標準規格を順守した上での疑似的なものであり、対応する弊社製の機器間でのみ有効です。

# ・・・・・・・・・ 通話モード一覧 ・・・・・・・・・

よく使用する通話モードについては本書にて説明しています。
その他の通話モードや高度な使用方法については弊社ホームページをご覧ください。
ホームページ　http://www.alinco.co.jp/「電子事業部」

| モード番号 | 通話方式 | チャンネル | ディスプレイ表示 | 取扱説明 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 交互通話（単信） | L01 ～ 09<br>b01 ～ 11 | 子機 | 本書 |
| 2 | 同時通話（PTT タイプ） | L10 ～ 18<br>b12 ～ 29 | 同時 / 子機 | 本書 |
|  | 同時通話（電話タイプ） | L10 ～ 18<br>b12 ～ 29 | 同時 / 子機 / (電話マーク) | 本書 |
| 3 | 半複信中継子機 | L10 ～ 18<br>b12 ～ 29 | 中継 / 子機 | 本書 |
| 4 | 複信中継子機（PTT タイプ） | L10 ～ 18<br>b12 ～ 29 | 同時 / 子機 / 中継 | 弊社ホームページ |
|  | 複信中継子機（電話タイプ） | L10 ～ 18<br>b12 ～ 29 | 同時 / 子機 / 中継 / (電話マーク) | 弊社ホームページ |
| 5 | 半複信中継器 | L10 ～ 18<br>b12 ～ 29 | 中継 | 本書 |
| 6 | 複信（連結）中継器 | L10 ～ 18<br>b12 ～ 29 | 同時 / 中継 | 弊社ホームページ |
| 7 | 使用しません | ――― | ――― | ―― |
| 8 | 半複信連結中継子機 | L10 ～ 18<br>b12 ～ 29 | 中継 / 子機 | 弊社ホームページ |
| 9 | デュアルオペレーション | メモリー<br>A/b | メモリー内容による | 本書 |
| 10 | 使用しません | ――― | ――― | ―― |
| 11 | 使用しません | ――― | ――― | ―― |
| 12 | 中継器リモコン | L10 ～ 18<br>b12 ～ 29 | (マーク) 点滅 | 弊社ホームページ |
| 13 | ショックセンサー | L01 ～ 09 ／ b01 ～ 11<br>L10 ～ 18 ／ b12 ～ 29 | 子機／ (目マーク) | 弊社ホームページ |
| 14 | 連続・交互通話 | チャンネルグループ<br>A ～ H | 子機 | 弊社ホームページ |
| 15 | 連続・同時通話 | チャンネルグループ<br>A ～ H | 同時／子機 | 弊社ホームページ |

# 各モードの操作方法

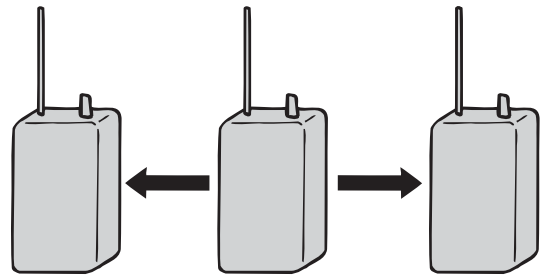
モードごとに操作方法を説明します。ここではよく使用する通話モードについて説明します。

> メモ　その他の通話モードや高度な使用方法については弊社ホームページをご覧ください。

## モード 1：交互通話（単信）

もっとも基本的な交互通話（単信）の操作方法です。

### ❶ 電源を入れる

[電源 ⏻ ] キーを約 2 秒間押します。

### ❷ チャンネルを合わせる

ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。

### ❸ 音量を調整する

ダイヤルを押し、音量レベルが表示中にダイヤルを回します。適切な音量に調整 してください。

### ❹ 受信 / 送信する

● **受信する**

1 受 L01 子機

信号を受信するとスピーカーから相手の声が聞こえます。ディスプレイの 受 が点灯します。

> メモ　信号が弱く相手の声が途切れる場合、[モニター] キーを押してください。スケルチが解除され聞きやすくなることがあります。スケルチとは受信信号がないときに「ザー」というノイズを消す機能です。

### ● 送信する

信号を受信していないことを確認してから［PTT］キーを押します。
［PTT］キーを押しながらマイクに向かって話します。
ディスプレイの 送 が点灯します。
［PTT］キーを離すと受信待ち受けに戻ります。

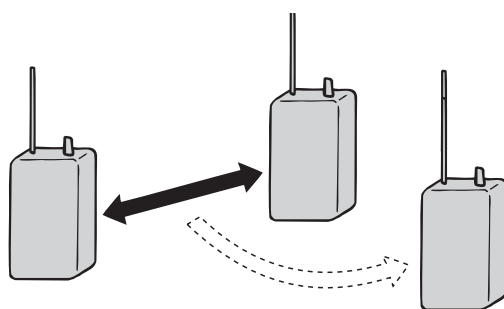
メモ　マイクと口もとは約 5 センチ離してください。

## ■ コールトーン機能

送信中に［ファンクション］キー、［グループ］キー、［モニター］キーのいずれかを押すと音色の異なる呼び出し音が鳴り、相手に注意喚起することができます。

# モード 2：同時通話（複信）

**電話のように会話ができる同時通話モードです。グループ全員に呼び出しをおこない、最初に応答した人と通話します。モード 2 に設定すると自動的に複信チャンネル（L10 〜 /b12 〜）に移行します。**

注意　同時通話モードでは必ずオプションの外部マイク（ヘッドセットやイヤホンマイク）をご使用ください。スピーカーマイクはハウリングが起こるためご使用になれません。

モード 2 には「PTT タイプ」と「電話タイプ」があります。
初期状態では「PTT タイプ」が選択されています。

メモ　従来製品では「PTT タイプ」のことを「強制タイプ」と称している場合がありますが同じ機能です。

## ■ PTT タイプ

交互通話のようにお互いの [PTT] キーを押して送信する通話方式です。

### ❶ 外部マイクを接続する

本機にオプションのヘッドセットやイヤホンマイクを接続します。

### ❷ モード2に設定する

［ファンクション］キーを押し F 点灯中に［モード］キーを押します。
→モード番号が点滅します。
ダイヤルを回してモード2に設定します。［PTT］キーを押して設定を完了します。

同時
2 L10-01
子機

メモ　モード2に設定すると自動的にグループトーク機能がONになりグループ番号が表示されます。グループトーク機能を解除することはできません。

### ❸ チャンネルを合わせる

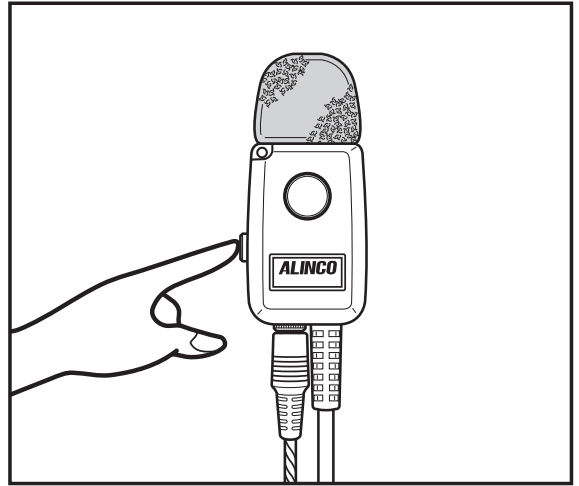
ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。

メモ　同時通話でチャンネル b12 ～ b29 を選択すると自動的に送信出力は Lo パワー 1mW になり 3 分制限のない連続送信がおこなえます。1mW 設定時にはチャンネル表示部に「.（ドット)」が点灯します。
チャンネル L10 ～ L18 は 1mW に設定しても連続送信はできません。

### ❹ グループ番号を合わせる

ダイヤルを2回押すとグループ番号が点滅します。
点滅中にダイヤルを回してグループ番号を設定します。
[PTT］キーを押して設定を完了します。

## ❺ 呼び出す

本機に接続した外部マイクの [PTT] キーを押します。
送 が点灯します。外部マイクに向かって話します。

メモ　ご使用になるオプションマイクによって形状や［PTT］キーの位置は異なります。

## ❻ 応答する

呼び出しに応答するときは本機に接続した外部マイクの [PTT] キーを押します。
同時通話が成立すると 送 受 が点灯します。外部マイクに向かって話します。

## ❼ 通話を終了する

通話を終了するときは外部マイクの [PTT] キーを押します。
送信が停止し 送 が消灯します。

メモ　モード 2 の同時通話においてセットモードの PTT ホールド機能を初期状態の At（AUTO）に設定しておくと自動的に PTT ホールド機能は有効になります。PTT ホールド機能とは［PTT］キーを押し続けなくても送信を保持する機能です。［PTT］キーを押すたびに送信、受信待ち受けになります。

## ■ ループ機能

セットモードのループ機能を ON にすると通話している 2 人以外の第三者が会話を聞くことができます。送信するトランシーバーすべてのループ機能を ON にしてください。

## ■ 電話タイプ

電話のように呼び出し／応答の手順で通話をおこないます。

### ❶ 外部マイクを接続する

本機にオプションのヘッドセットやイヤホンマイクを接続します。

### ❷ 通話タイプを切り替える

[ ファンクション ] キーを押し F 点灯中に [ フック ] キーを約 2 秒間押します。 が点灯し「電話タイプ」に切り替わります。

### ❸ チャンネルとグループを合わせる

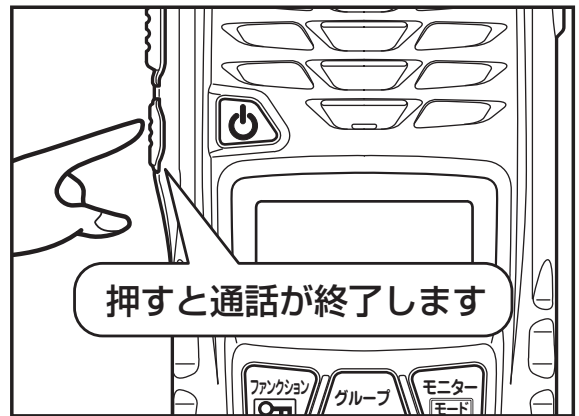
### ❹ 呼び出す

本体の［PTT］キーまたは外部マイクの［PTT］キーを押します。
→ 10 秒間呼び出し音が鳴ります。
相手からの応答を待ちます。

### ❺ 応答する

相手から呼ばれたときは 10 秒間呼び出し音が鳴ります。呼び出し音が鳴っている間に本体の［PTT］または［フック］キー、または外部マイクの［PTT］キーを押します。
→同時通話が成立して 送 受 が点灯します。外部マイクに向かって話します。

## ❻ 通話を終了する

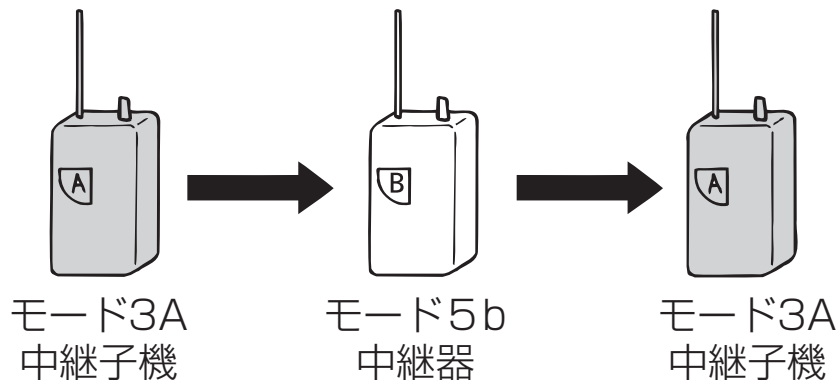
通話を終了するには本体の［PTT］キーまたは［フック］キー、または外部マイクの［PTT］キーを押します。

押すと通話が終了します

# モード３：中継子機（半複信）

半複信方式の中継器にアクセスする子機モードです。本機のモード５などの中継器を介することで直接では電波が届かない相手と通話することができます。
別途、中継器が必要です。（DJ-P101R、DJ-P111R、DJ-P112R、DJ-R100D、DJ-R200D など）

モード3A
中継子機

モード５b
中継器

モード3A
中継子機

## ❶ モード３に設定する

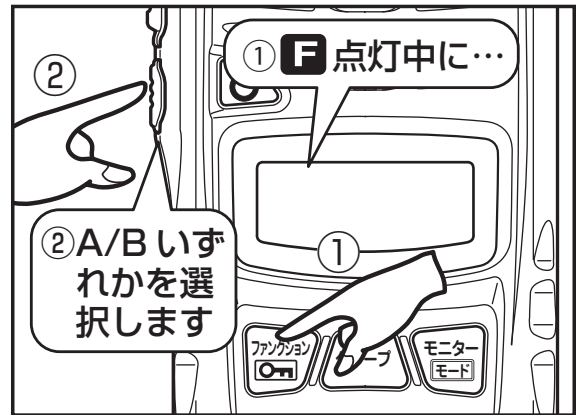
［ファンクション］キーを押し F 点灯中に［モード］キーを押します。
→モード番号が点滅します。
ダイヤルを回してモード３に設定します。［PTT］キーを押して設定を完了します。

3A L10
中継 子機

## ❷ チャンネルとグループ番号を合わせる

ダイヤルを回して中継器とチャンネルを合わせます。
中継器にグループトーク機能が設定されている場合はグループ番号を合わせます。

## ❸ 周波数帯を設定する

通常は初期状態の「3A」でご使用ください。
切り替える場合は［ファンクション］キーを押し F 点灯中に［A/B］キーを押します。
「3A/3b」を選択します。



**メモ**
ご使用になる中継器の設定をご確認ください。
周波数帯は中継器と逆に設定します。
中継器が A なら子機を B、中継器が B なら子機を A にします。

## ❹ 送信する

［PTT］キーを押し続けます。
「ピピ」という音が鳴って中継器にアクセスします。
［PTT］キーを押したままマイクに向かって話します。

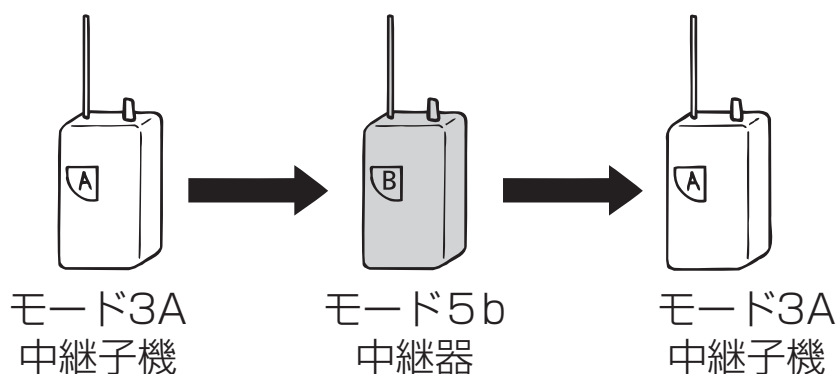
# モード５：中継器（半複信）

半複信方式の中継器として使用するモードです。本機のモード３中継子機でアクセスします。

> **メモ** モード５中継器に設定すると中継動作の反応を速くするため自動的にバッテリーセーブ機能が OFF になりチャンネル表示部に「.（ドット）」が点灯します。セットモードで ON にすることもできます。

モード3A
中継子機

モード５b
中継器

モード3A
中継子機

## ❶ モード５に設定する

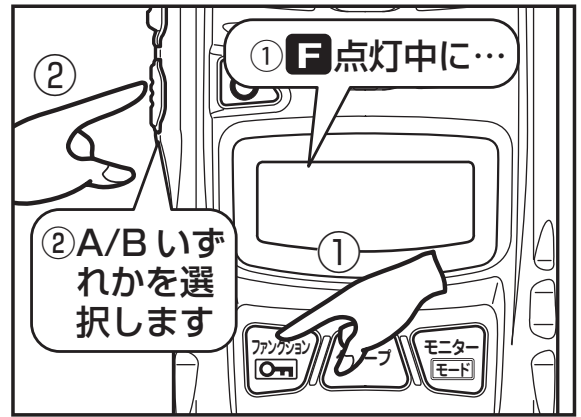
［ファンクション］キーを押し F 点灯中に［モード］キーを押します。
→モード番号が点滅します。
ダイヤルを回してモード５に設定します。［PTT］キーを押して設定を完了します。

5b L 10
中継

## ❷ チャンネルとグループ番号を合わせる

ダイヤルを回して子機とチャンネルを合わせます。
必要に応じてグループトーク機能に設定します。子機と同じグループ番号に合わせます。

## ❸ 周波数帯を設定する

通常は初期状態の「5b」でご使用ください。
切り替える場合は［ファンクション］キーを押し F 点灯中に［A/B］キーを押します。
「5b/5A」を選択します。


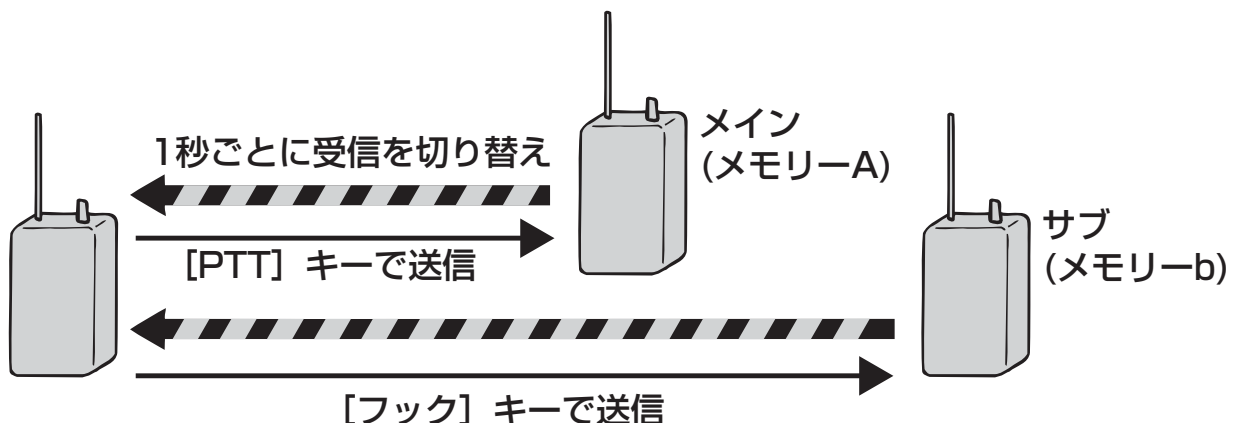

**メモ**

- ご使用になる子機の設定をご確認ください。周波数帯は子機と逆に設定します。中継器が A なら子機を B、中継器が B なら子機を A にします。モード 5 中継器のスピーカーから受信音が聞こえます。必要 に応じて音量を調整してください。
- モード 5 中継器はモード 12 中継器リモコンでチャンネルなどを遠隔設定することができます。中継器の電源起動後または外部電源供給後の 10 秒間はリモコンからの設定信号を待ち受けます。使用方法は弊社ホームページをご覧ください。

**注意**

- モード 5 は中継器として動作するため通話には使用できません。
- それぞれのトランシーバーが至近距離にあると誤動作することがあります。子機 - 中継器間、子機 - 子機間は 10 メートル以上離してください。
- 中継器として設置する場合は、直接風雨にさらされる場所や直射日光があたる場所は避けてください。
- AC アダプターを使用する場合は、水分がコードを伝って機器内部へ浸入しないようご注意ください。

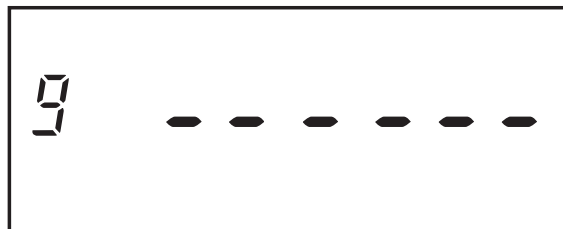
# モード 9：デュアルオペレーション

メイン / サブの 2 つのチャンネルを交互に受信し、そのどちらとも通話できるモードです。
本モードを使用するときは、P.40 を参照してあらかじめメモリーチャンネル A、b への登録が必要です。
登録できるモードはモード 1 交互通話とモード 3 半複信中継子機です。

## ❶ メモリー番号 A/b を登録する

事前に P.43 を参照して、メインに設定する内容を「メモリー番号 A」に、サブに設定する内容を「メモリー番号 b」に登録します。

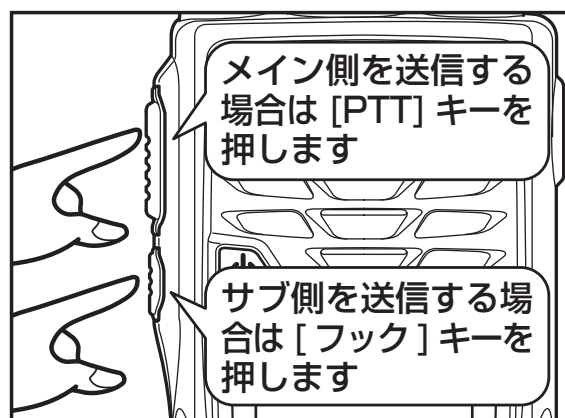
## ❷ モード 9 に設定する

9 - - - - - -

[ファンクション] キーを押し F 点灯中に [モード] キーを押します。
→モード番号が点滅します。
ダイヤルを回してモード 9 に設定します。[PTT] キーを押して設定を完了します。
→「dUAL」と表示されたあと「メモリー番号 A」をメインに、「メモリー番号 b」をサブとして 1 秒ごとの交互受信待ち受けを開始します。

メモ 上記のディスプレイ表示はメモリー A、b に何も登録していないときのものです。
正しく登録されていれば 1 秒ごとにチャンネル表示が切り替わります。

## ❸ 送信 / 受信する

### ●送信する

メイン側を送信するときは [PTT] キーを、サブ側を送信するときは [フック] キーを押します。
送信を終了すると 1 秒ごとの交互受信待ち受けを再開します。



メモ オプションの外部マイクをご使用の場合は [PTT] キーを一度押しでメイン側を送信、二度押しでサブ側を送信します。

### ●受信する

メイン側を受信すると「mAin」と表示され、「ピッ」音が鳴ります。
サブ側を受信すると「SUb」と表示され、「ピピ」音が鳴ります。

注意 デュアルオペレーション動作中はバッテリーセーブ機能が働かないため電池の消耗が早くなります。

# 3 便利な機能

本機を使用する際に便利な機能を紹介します。

## ・・・・・・・・ グループトーク ・・・・・・・・

同じグループ設定の人とだけ通話したいときはグループトーク機能を使用します。同じグループのトランシーバーはすべて同じグループ番号に設定してください。グループ番号は 50 通りの中からひとつを選択してください。

**注意**
本機能は第三者による傍受を防ぐものではないため、グループトーク機能のない同じチャンネルのトランシーバーには話し声が聞こえます。
他のトランシーバーとグループトーク通話したときに信号検出精度が異なるため受信音声が途切れる場合があります。このようなときは違うグループ番号に設定して通話をお試しください。

**メモ**
初期状態は 01 番に設定されており一般的によく使用されています。混信を避けるため 01 番以外に設定されることをお勧めします。

### ❶ [ グループ ] キーを押す

→グループ番号が点灯します。

### ❷ ダイヤルを 2 回押す

→グループ番号が点滅します。



### ❸ グループ番号を選択する

グループ番号が点滅中にダイヤルを回しグループ番号を選択します。

### ❹ 設定を完了する

[PTT] キーを押して設定を完了します。
各キーの無操作状態が約 5 秒続いたときは自動的に設定を完了します。

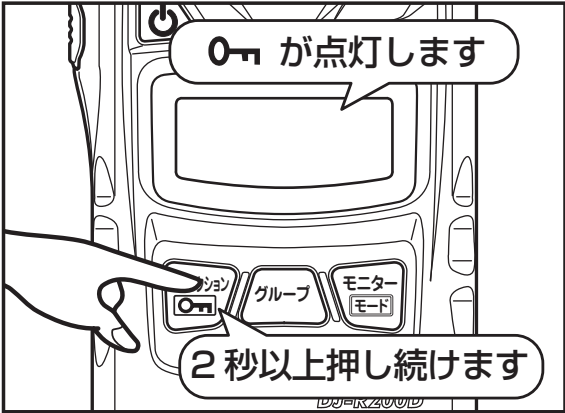
グループトーク機能を解除するときも [ グループ ] キーを押します。
→グループ番号が消灯します。

# ・・・・・・・・・ キーロック ・・・・・・・・・

キーロックしておくと誤操作を防止できます。

## ■ 簡易キーロック（LoC-1）

キーを約 2 秒間押します。

→ 「LoC-1」が点滅したあと「」が点灯します。
解除するには同じ操作をします。



## ■ 通常キーロック（LoC-2）

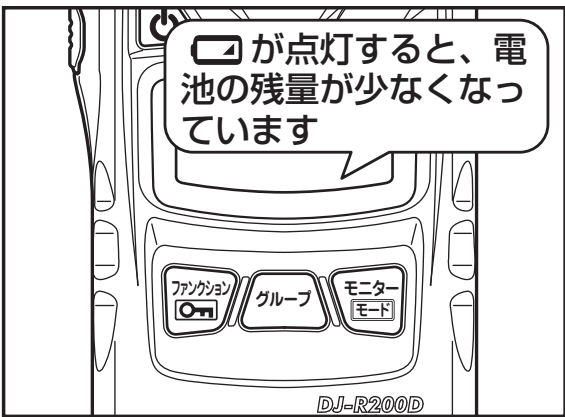
キーと [ グループ ] キーを同時に約 2 秒間押します。

→ 「LoC-2」が点滅したあと「」が点灯します。
解除するには同じ操作をします。

> **メモ** キーロックしていても送信、音量調整、モニター操作はおこなえます。
> セットモードのキーロック設定で、キーの押し時間を変更することができます。

# ・・・・・・・・・ 減電池お知らせ ・・・・・・・・・

電池の電圧が低下すると「」が点灯します。さらに低下すると「」が点滅します。
乾電池をご使用の場合は新しいものに交換してください。オプションのバッテリーパックをご使用の場合は充電してください。

本機の電源を切った状態で充電すると「CHArGE」を表示し「」が点滅します。満充電になると「FULL」を表示し「」が消灯します。
本機の電源を入れた状態で充電したときはチャンネルなどを表示しますが「」は点灯、点滅しません。バッテリーパックの電圧を検知して自動的に充電を開始しその後完了します。

# ・・・・・・・・ メモリーモード ・・・・・・・・

あらかじめ登録しておいたチャンネルを呼び出して運用するモードです。登録できる数は、0～9、A、b の 12 個です。
A､b に登録した内容はモード 9 デュアルオペレーションで使用します。

## ■ メモリー登録

### ❶ 状態を設定する

登録したい状態にモード、チャンネル、グループトークなどを設定します。

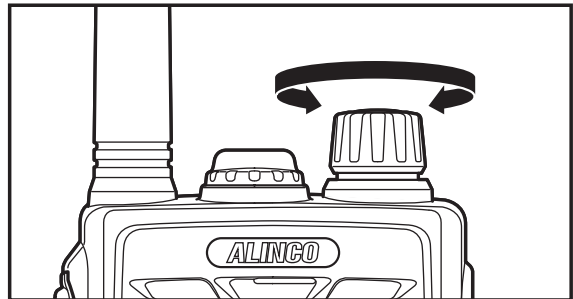
### ❷ [ ファンクション ] キーを押す

→ M とメモリー番号が点滅します。



メモ 既に登録済みのメモリーチャンネルは番号が点灯します。

### ❸ メモリー番号を選択する

ダイヤルを回し登録したいメモリー番号（0～9、A、b）を選択します。



### ❹ 登録する

[ グループ ] キーを約 2 秒間押します。
→「writE」が表示されメモリーに設定した内容が登録されます。

## ■ メモリー呼び出し

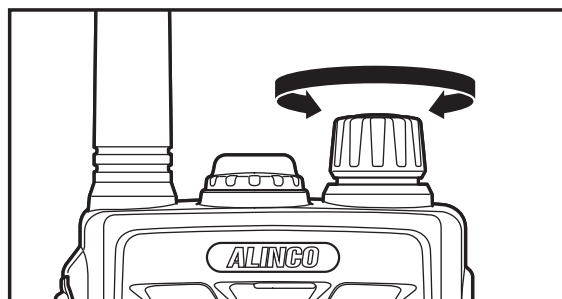
### ❶ メモリーモードへ切り替える

[グループ]キーを約2秒間押します。
→**M**とメモリー番号が点灯しメモリーモードに切り替わります。

**M**とメモリー番号が点灯します

### ❷ メモリー番号を選択する

ダイヤルを回し使用するメモリー番号を選択します。

通常の通話モードへ戻すには再度[グループ]キーを約2秒間押します。
→**M**とメモリー番号が消灯します。

メモ
メモリーモード時に登録された通話モードを確認するには[グループ]キーを押します。
またセットモードのメモリー表示機能でメモリー番号と通話モードのどちらを優先して表示させるかを選択することができます。

## ■ メモリー消去

登録されたすべてのメモリー内容を一括して消去するには完全リセット操作をおこなってください。特定のメモリー内容を消去するには、メモリー登録操作で該当のメモリー番号を選択して点灯させ[モニター]キーを約2秒間押します。「ErASE」が点灯します。
メモリー内容はメモリー登録操作で上書きすることにより変更できます。

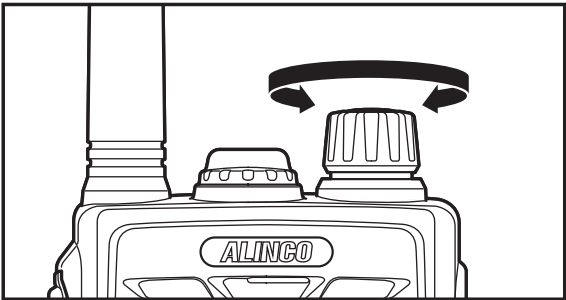
# 緊急通報

本機を簡易的な緊急通報機器として使用する機能です。普段はトランシーバーとして使用し、万一の際にはアラーム音を送信し相手機にお知らせします。モード１交互通話とモード３中継子機で使用できます。

## ❶ 通話モードを設定する

モード１交互通話またはモード３中継子機に設定します。

## ❷ チャンネルを合わせる

ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。

## ❸ 緊急通報を発する

ダイヤルを約３秒間押します。

→ 緊急通報を発しアラーム音を 10 秒間送信します。信号を受信した相手機からはアラーム音が鳴ります。

３秒以上押し続けて、緊急通報を送信します

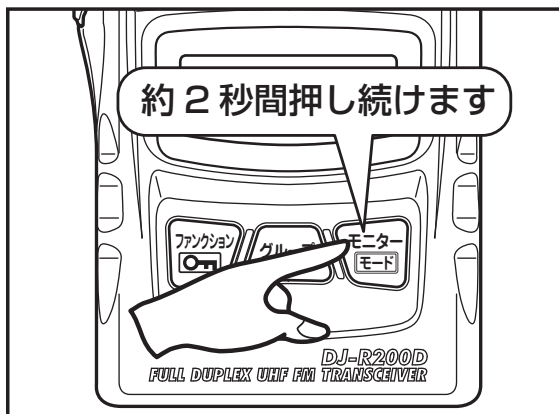
メモ　モード３中継子機で本機能をご使用になるときは、本機モード５中継器や他の中継器が必要です。

# ••••••••スキャン••••••••

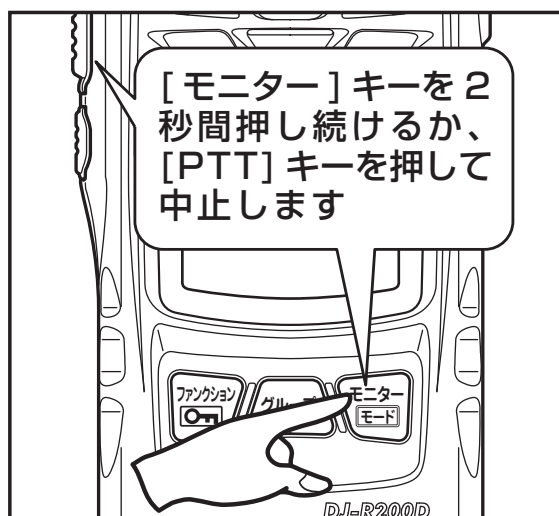
自動的に受信チャンネルを切り替えて信号を探す機能です。
信号を見つけるとスキャンが止まり、信号がなくなると再開します。
モード１交互通話とモード３中継子機で使用できます。

## ❶ スキャンを開始する

[モニター]キーを約２秒間押します。
自動的にチャンネルが切り替わり信号を探します。

約２秒間押し続けます

## ❷ スキャンを停止する

[モニター]キーを約２秒間押すか[PTT]キーを押します。

[モニター]キーを２秒間押し続けるか、[PTT]キーを押して中止します

**注意** スキャン動作中はバッテリーセーブ機能が働かないため電池の消耗が早くなります。

**メモ** メモリーモードにして同じ操作をすると、登録されたメモリーチャンネルだけをスキャンします。

# ・・・・・・ フリーチャンネルサーチ ・・・・・・

自動的に空いているチャンネルを見つけて通話する機能です。モード1交互通話でのみ使用できます。
本機能を使用する双方のトランシーバーを同じ設定にしてください。

フリーチャンネルサーチはL01～L09間、またはb01～b11間のみをサーチするため、あらかじめLチャンネルまたはbチャンネルのいずれかを選択してください。

## ❶ グループトークモードにする

[グループ]キーを押します。
→グループ番号が点灯します。



## ❷ グループ番号を合わせる

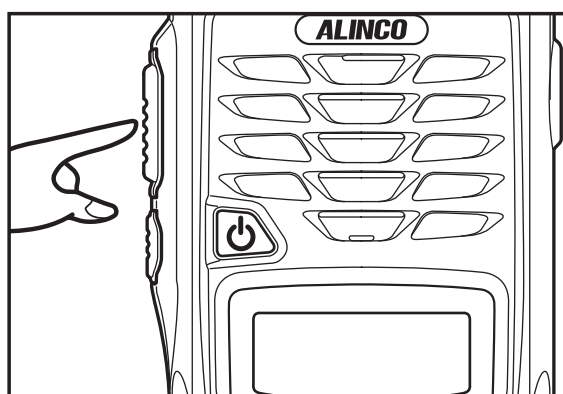
ダイヤルを2回押しグループ番号が点滅中にダイヤルを回しグループを選択します。[PTT] キーを押して設定を完了します。

## ❸ フリーチャンネルサーチを開始する

[サーチ]キーを約2秒間押します。
→ サーチが開始され自動的にチャンネルが切り替わります。



### ● 相手を呼び出す

[PTT] キーを押します。
→ 空きチャンネルがあればそこで止まり5秒間送信して相手を呼び出します。

### ● 送信する

呼び出した相手から送られて来た「ピピ」という応答音を確認したら [PTT] キーを押しながらマイクに向かって話します。

送 が点灯します

### ● 受信する／応答する

サーチ中に相手からの呼び出しがあると受信したチャンネルで止まります。しばらくすると呼び出し音が鳴り、相手の声が聞こえます。
呼び出しに応答するときは [PTT] キーを押しながらマイクに向かって話します。

1 受 L09-01 子機

メモ　5 秒間応答がないか通話が途切れるとサーチが再開されます。

### ❹ フリーチャンネルサーチを終了する

[ サーチ ] キーを約 2 秒間押します。
→サーチが終了します。

注意　フリーチャンネルサーチ動作中はバッテリーセーブ機能が働かないため電池の消耗が早くなります。

2秒以上押し続けます

## ・・・・・・ イヤホン断線検知 ・・・・・・

オプションのイヤホンマイクなどを接続して電源を入れた時に、イヤホンが断線していないか自動で検知をおこないます。
もし断線していれば異常であることをディスプレイ表示「EAr-nG」と音声ガイダンスでお知らせします。

## ・・・・・・ テールノイズキャンセラー ・・・・・

受信終了時の「ザッ」というノイズを低減する機能です。
本機能を搭載した弊社機器間の通話においてのみ有効です。

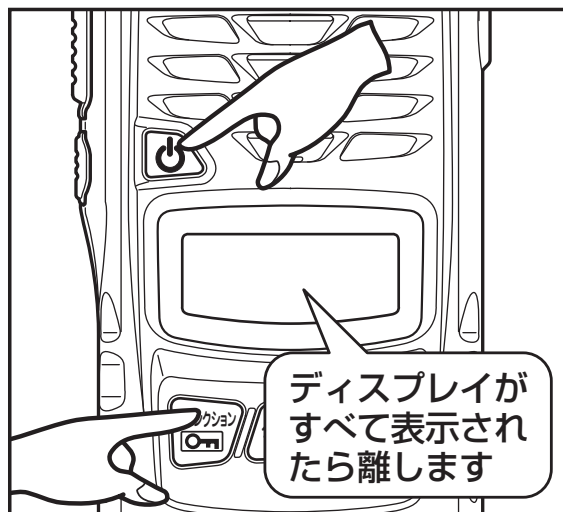
# ・・・・・・・・リセット・・・・・・・・

設定を初期化するときはリセットします。リセットには 2 つの方法があります。
　簡易リセット：設定状態がわからなくなったときに初期化します。
　完全リセット：工場出荷状態に戻ります。

## ■ 簡易リセット

[ ファンクション ] キーを押しながら電源を入れます。
→ ディスプレイが全点灯中にキーを離します。

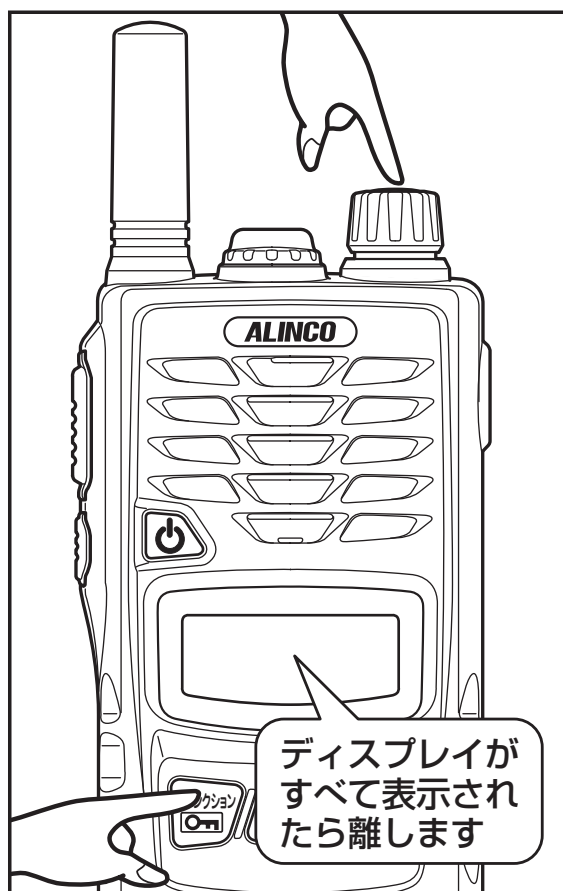
メモ　簡易リセットでは登録済みメモリーは保存されます。標準セットモードの設定内容は初期化されますが、上級セットモードの設定内容は保存されます。

ディスプレイがすべて表示されたら離します

## ■ 完全リセット

[ ファンクション ] キーとダイヤルを押しながら電源を入れます。
→ ディスプレイが全点灯中にキーを離します。

メモ　完全リセットでは登録済みメモリーは消去されます。標準セットモードおよび上級セットモードのすべての設定内容は初期化されます。

ALINCO

ディスプレイがすべて表示されたら離します

# 4 セットモード

各種機能を用途に合わせてカスタマイズすることができます。
本書ではよく使用する標準セットモードについて説明します。
本書に記載していないその他の標準セットモードおよび上級セットモードについては弊社ホームページをご覧ください。

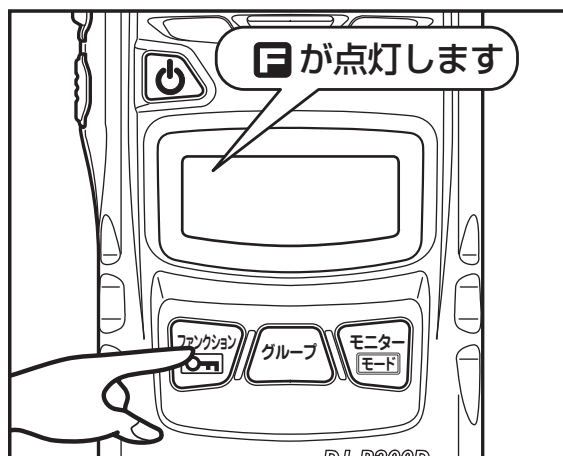
## ・・・・・・・・・ セットモード一覧 ・・・・・・・・・

| | カスタマイズ項目 | 初期値 | 参照ページ |
|---|---|---|---|
| 1 | CH ／ VOL リバース | CH | P.52 |
| 2 | コンパンダー | OFF | P.53 |
| 3 | 秘話 | OFF | P.53 |
| 4 | ループ（第三者受信） | OFF | P.54 |
| 5 | 着信バイブレーター | OFF | P.54 |
| 6 | ベル | OFF | P.55 |
| 7 | バッテリーセーブ | ON | P.56 |
| 8 | オートパワーオフ | OFF | P.56 |
| 9 | ランプ | 5（秒） | P.57 |
| 10 | PTT ホールド | At | P.57 |
| 11 | 送信出力 | At | P.58 |
| 12 | VOX | OFF | P.58 |
| 13 | 操作音量 | 3 | P.59 |
| 14 | サウンド | bP | P.59 |
| 15 | エンドピー | OFF | P.60 |
| 16 | コールバック | OFF | P.60 |
| 17 | ディスプレイ表示 | modE | 弊社ホームページ |
| 18 | スケルチレベル | 3 | 弊社ホームページ |
| 19 | キーロック時間 | 2（秒） | 弊社ホームページ |
| 20 | メモリー表示 | Number | 弊社ホームページ |
| 21 | 音色変更 | 1 | 弊社ホームページ |
| 22 | 中継器アラーム | OFF | 弊社ホームページ |
| 23 | 中継器ハングアップタイマー | 0（秒） | 弊社ホームページ |
| 24 | 中継器接続手順 | On2 | 弊社ホームページ |
| 25 | 中継器バッテリーセーブ | OFF | 弊社ホームページ |
| 26 | 電池電圧参照 | - | 弊社ホームページ |
| 27 | PTT オフ | ON | 弊社ホームページ |
| 28 | LCD 消灯 | ON | 弊社ホームページ |
| 29 | 外部音量変更 | H | 弊社ホームページ |
| 30 | イヤホン断線検知 | ON | 弊社ホームページ |

**注意** 17 ～ 30 の設定方法は本書に記載しておりません。弊社ホームページをご覧ください。
セットモードの設定内容は簡易リセットすると初期化されます。

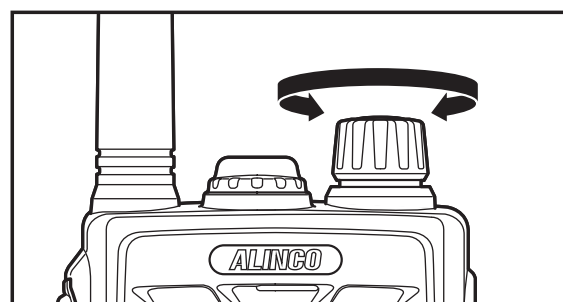
# ・・・・・・ セットモードの設定方法 ・・・・・・

## ❶ セットモードにする

[ ファンクション ] キーを押します。
→ F が点灯します。

## ❷ ダイヤルを押す

F 点灯中にダイヤルを押します。
→ セットモードの項目が表示されます。
ダイヤルを押すごとに項目が切り替わります。[ フック ] キーを押すと前項目に戻ります。

## ❸ 設定値を変更する

ダイヤルを回して ON ／ OFF を設定したり値を選択します。

### ❹ 設定を完了する

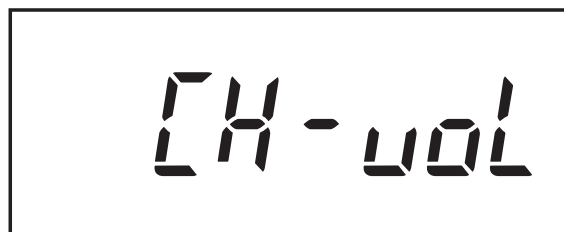
[PTT] キーを押して設定を完了します。

押すと設定が完了します

## ・・・・・・CH/VOL リバース・・・・・・

ダイヤルを回したときにチャンネル変更と音量調整のどちらの操作をするかを選択できます。
初期状態ではチャンネル変更するように設定されています。

### ❶ CH/voL の設定をする

セットモードにして「CH-voL」を選択します。

CH-voL

### ❷ CH/voL を切り替える

ダイヤルを回して「CH-voL」または「voL-CH」を選択します。
→「voL-CH」を選択するとダイヤルを回した時に音量調整ができます。

メモ 「CH-voL」が選択されていてもキーロック中にダイヤルを回すと音量調整になります。

# ・・・・・・ コンパンダー ・・・・・・

受信中の「サー」というバックノイズを低減する機能です。
初期状態では OFF に設定されています。

## ❶ コンパンダーの設定をする

セットモードにして「ComPnd」を選択します。

oFF ComPnd

## ❷ ON/OFF を設定する

ダイヤルを回して ON/OFF を設定します。
→ ON にすると「♫」が点灯します。

注意 コンパンダー機能のないトランシーバーとも通話できますがバックノイズが増え音声が聞き取りにくくなることがあります。そのようなときは本機能を OFF に設定してください。

# ・・・・・・ 秘話 ・・・・・・

秘話（スクランブルトーク）を設定すると他のグループの人には会話の内容が聞き取れなくなります。

## ❶ 秘話の設定をする

セットモードにして「ScrbLE」を選択します。

oFF ScrbLE

## ❷ ON/OFF を設定する

ダイヤルを回して ON ／ OFF を設定します。
→ ON にすると「秘話」が点灯します。

メモ 同じ方式の秘話機能を持った弊社製トランシーバーと通話できます。
一部の従来製品とはキャリア周波数が異なるため、受信音声が聞き取りにくいことがあります。

注意 同じ方式の秘話機能を持ったトランシーバーでは会話が聞き取れるため、盗聴や傍受を防ぐ機能ではありません。

## ・・・・・・ ループ（第三者受信）・・・・・・

モード 2、モード 4 の同時通話で第三者が会話を聞くことができる機能です。初期状態では OFF に設定されています。

### ❶ ループの設定をする

セットモードにして「AFLooP」を選択します。

oFF AFLooP

### ❷ ON/OFF を設定する

ダイヤルを回して ON/OFF を設定します。

**注意** 本機能は会話を聞く第三者（受信者）ではなく送信者のトランシーバーに設定してください。
モード 2 で使用するときは最初に呼び出しをおこなうトランシーバーに設定します。両方のトランシーバーに設定しても問題ありません。
モード 4 で使用するときは片方のトランシーバーにのみ設定してください。両方のトランシーバーに設定すると原理上ハウリングが発生します。

## ・・・・・・ 着信バイブレーター ・・・・・・

受信したことをバイブレーターの振動でお知らせします。初期状態では OFF に設定されています。

### ❶ バイブレーターの設定をする

セットモードにして「vib」を選択します。

oFF vib

## ❷ 振動タイプを選択する

ダイヤルを回して振動のタイプと時間を選択します。
A10 ： A タイプ振動 10 秒間
b10 ： b タイプ振動 10 秒間
A20 ： A タイプ振動 20 秒間
b20 ： b タイプ振動 20 秒間
→バイブレーターを設定すると「☆」が点灯します。

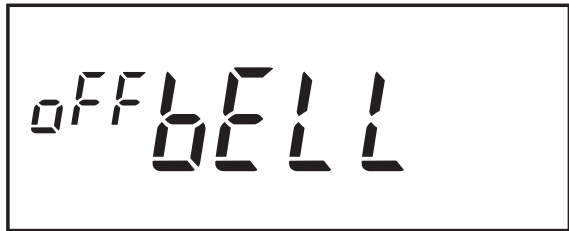
メモ　一定時間（10 秒または 20 秒間）通話が途切れたあとに受信したときバイブレーターが作動します。

# ベル

呼び出されたことを表示とベル音でお知らせします。初期状態ではOFF に設定されています。

## ❶ ベルの設定をする

セットモードにして「bELL」を選択します。

oFF bELL

## ❷ ON/OFF を設定する

ダイヤルを回して ON/OFF を設定します。

メモ　一定時間通話が途切れたあとに受信したとき 10 秒間ベルが作動します。

## ・・・・・・ バッテリーセーブ ・・・・・・

待ち受け状態が 5 秒以上続くと内部電源を定期的に ON/OFF させて電池の消費を抑える機能です。初期状態では ON1 に設定されています。

### ❶ バッテリーセーブの設定をする

セットモードにして「bS」を選択します。

on 1 bS

### ❷ ON ／ OFF、セーブモードを設定する

ダイヤルを回して ON ／ OFF やセーブモードを設定します。
OFF、ON1、ON2（ロング BS)、ECO（エコ BS）から選択します。
ロング BS は低消費モード、エコ BS はさらに低消費モードです。
→ バッテリーセーブ機能を OFF に設定するとチャンネル表示部に「.（ドット)」が点灯します。

注意
ロング BS とエコ BS では受信音声が出力される際に頭切れを起こすことがあります。
本機能を OFF にすると受信音声出力の反応はよくなりますが、電池の消耗が早くなります。

## ・・・・・・ オートパワーオフ ・・・・・・

電源の切り忘れを防ぐ機能です。無操作状態が設定時間続くとビープ音でお知らせし自動的に電源が切れます。初期状態では OFF に設定されています。

### ❶ オートパワーオフの設定をする

セットモードにして「APO」を選択します。

oFF APo

### ❷ 時間を設定する

ダイヤルを回して電源が切れるまでの時間を設定します。
OFF、30 分、60 分、90 分、120 分から選択します。

## ・・・・・・ ランプ ・・・・・・

ディスプレイ照明を設定する機能です。初期状態では５秒に設定されておりキー操作をすると５秒間照明が点灯します。

### ❶ ランプの設定をする

セットモードにして「LAmP」を選択します。

5 LAmP

### ❷ 照明の点灯時間を設定する

ダイヤルを回して照明の点灯時間を設定します。
OFF、５秒、ON（常時点灯）から選択します。

**注意** ディスプレイ照明を常時点灯させせると電池の消耗が早くなります。

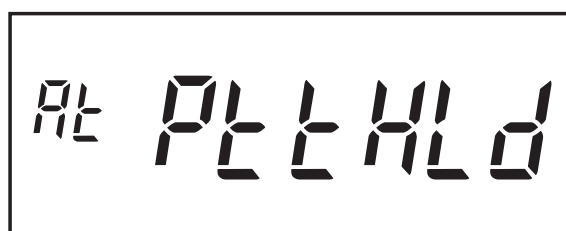
## ・・・・・・PTT ホールド ・・・・・・

[PTT] キーを一度押すと送信を継続する機能です。もう一度押すと受信待ち受けに戻ります。
本機能を使用すると [PTT] キーを押し続ける必要がなくなります。
初期状態では AUTO に設定されています。

モード１交互通話、モード３中継子機では OFF、モード２同時通話 PTT タイプでは ON に設定されています。

### ❶ PTT ホールドの設定をする

セットモードにして「PttHLd」を選択します。

At PttHLd

### ❷ ON/OFF を設定する

ダイヤルを回して At（AUTO）、ON、OFF から選択します。

# ・・・・・・送信出力・・・・・・

送信出力を変更する機能です。初期状態では AUTO に設定されています。
モード 2 などの同時通話ビジネスチャンネル（b12 ～ b29）選択時には自動的に Lo パワー（1mW）になり、3 分制限のない連続通話ができます。その他の通話モードでは Hi パワー（10mW）に設定されています。

## ❶ 送信出力の設定をする

セットモードにして「Pow」を選択します。

Pow-At

## ❷ 送信出力を切り替える

ダイヤルを回して送信出力を At、Hi、Lo から選択します。
Lo 設定時にはチャンネル表示部に「.（ドット）」が点灯します。

**注意** Hi（10mW）に設定すると交互通話、同時通話におけるすべてのチャンネルの通話時間は 3 分間に制限されます。

# ・・・・・・VOX・・・・・・

[PTT] キーを押さなくてもマイクに音声入力があると自動的に送信する機能です。初期状態では OFF に設定されています。

## ❶ VOX の設定をする

セットモードにして「vo」を選択します。

oFF vo

## ❷ VOX 感度を設定する。

ダイヤルを回して VOX 感度を OFF、Lo、Hi から選択します。

本機能を設定するとチャンネル表示の左横に「v」が点灯します。

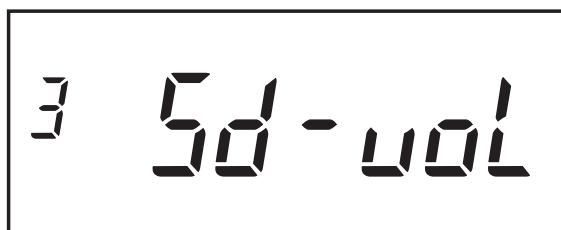
**メモ** オプションのイヤホンマイクやヘッドセットでも VOX 運用ができます。

## ・・・・・・ 操作音量 ・・・・・・

本機から鳴るビープやガイダンスの音量を調整する機能です。初期状態では「3」に設定されています。

### ❶ 操作音量の設定をする

セットモードにして「Sd-voL」を選択します。

3 Sd-voL

### ❷ 音量を切り替える

ダイヤルを回して操作音量を０～５から選択します。数値が大きいほど音量は大きくなり「0」に設定するとすべてのビープやガイダンスは鳴らなくなります。

## ・・・・・・ サウンド ・・・・・・

サウンドを設定する機能です。初期状態ではビープに設定されています。

### ❶ サウンドの設定をする

セットモードにして「Sound」を選択します。

bP Sound

### ❷ 音を選択する

ダイヤルを回して音を OFF、bP（ビープ）、GdC（ガイダンス）、ALL（ビープ＋ガイダンス）から選択します。

> **メモ** GdC（ガイダンス）または ALL（ビープ＋ガイダンス）を選択した場合、設定内容や状態を音声でお知らせします。

## ・・・・・・ エンドピー ・・・・・・

[PTT] キーを離したときに「ピッ」音が鳴り送信が終わったことを相手にお知らせする機能です。初期状態では OFF に設定されています。

### ❶ エンドピーの設定をする

セットモードにして「EndP」を選択します。

oFF EndP

### ❷ ON/OFF を設定する

ダイヤルを回して ON/OFF を設定します。

## ・・・・・・ コールバック ・・・・・・

自分が話した声をイヤホンから鳴らし話しやすくする機能です。
周りの騒音が大きいときに自分の声が聞こえることによって話しやすくなります。初期状態では OFF に設定されています。

### ❶ コールバックの設定をする

セットモードにして「CALLb」を選択します。

oFF CALLb

### ❶ ON/OFF を設定する

ダイヤルを回して ON/OFF を設定します。

# 5 付　録

本機の補足事項を記載しています。

## ‥‥ 各チャンネルの送受信周波数 ‥‥

### ■ レジャーチャンネル

| L01 | 422.2000MHz |
|---|---|
| L02 | 422.2125MHz |
| L03 | 422.2250MHz |
| L04 | 422.2375MHz |
| L05 | 422.2500MHz |
| L06 | 422.2625MHz |
| L07 | 422.2750MHz |
| L08 | 422.2875MHz |
| L09 | 422.3000MHz |

| | B | A |
|---|---|---|
| L10 | 421.8125MHz | 440.2625MHz |
| L11 | 421.8250MHz | 440.2750MHz |
| L12 | 421.8375MHz | 440.2875MHz |
| L13 | 421.8500MHz | 440.3000MHz |
| L14 | 421.8625MHz | 440.3125MHz |
| L15 | 421.8750MHz | 440.3250MHz |
| L16 | 421.8875MHz | 440.3375MHz |
| L17 | 421.9000MHz | 440.3500MHz |
| L18 | 421.9125MHz | 440.3625MHz |

メモ
複信、半複信モードでの周波数帯について…
A選択時:440MHz側を送信します。
B選択時:421MHz側を送信します。

### ■ ビジネスチャンネル

| b01 | 422.0500MHz |
|---|---|
| b02 | 422.0625MHz |
| b03 | 422.0750MHz |
| b04 | 422.0875MHz |
| b05 | 422.1000MHz |
| b06 | 422.1125MHz |
| b07 | 422.1250MHz |
| b08 | 422.1375MHz |
| b09 | 422.1500MHz |
| b10 | 422.1625MHz |
| b11 | 422.1750MHz |

| | B | A |
|---|---|---|
| b12 | 421.5750MHz | 440.0250MHz |
| b13 | 421.5875MHz | 440.0375MHz |
| b14 | 421.6000MHz | 440.0500MHz |
| b15 | 421.6125MHz | 440.0625MHz |
| b16 | 421.6250MHz | 440.0750MHz |
| b17 | 421.6375MHz | 440.0875MHz |
| b18 | 421.6500MHz | 440.1000MHz |
| b19 | 421.6625MHz | 440.1125MHz |
| b20 | 421.6750MHz | 440.1250MHz |
| b21 | 421.6875MHz | 440.1375MHz |
| b22 | 421.7000MHz | 440.1500MHz |
| b23 | 421.7125MHz | 440.1625MHz |
| b24 | 421.7250MHz | 440.1750MHz |
| b25 | 421.7375MHz | 440.1875MHz |
| b26 | 421.7500MHz | 440.2000MHz |
| b27 | 421.7625MHz | 440.2125MHz |
| b28 | 421.7750MHz | 440.2250MHz |
| b29 | 421.7875MHz | 440.2375MHz |

## ・・・トーン周波数一覧（グループ番号）・・・

| 番号 | 周波数 | 番号 | 周波数 | 番号 | 周波数 | 番号 | 周波数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 01 | 67.0Hz | 16 | 114.8Hz | 31 | 192.8Hz | 46 | 196.6Hz |
| 02 | 71.9Hz | 17 | 118.8Hz | 32 | 203.5Hz | 47 | 199.5Hz |
| 03 | 74.4Hz | 18 | 123.0Hz | 33 | 210.7Hz | 48 | 206.5Hz |
| 04 | 77.0Hz | 19 | 127.3Hz | 34 | 218.1Hz | 49 | 229.1Hz |
| 05 | 79.7Hz | 20 | 131.8Hz | 35 | 225.7Hz | 50 | 254.1Hz |
| 06 | 82.5Hz | 21 | 136.5Hz | 36 | 233.6Hz | | |
| 07 | 85.4Hz | 22 | 141.3Hz | 37 | 241.8Hz | | |
| 08 | 88.5Hz | 23 | 146.2Hz | 38 | 250.3Hz | | |
| 09 | 91.5Hz | 24 | 151.4Hz | 39 | 69.3Hz | | |
| 10 | 94.8Hz | 25 | 156.7Hz | 40 | 159.8Hz | | |
| 11 | 97.4Hz | 26 | 162.2Hz | 41 | 165.5Hz | | |
| 12 | 100.0Hz | 27 | 167.9Hz | 42 | 171.3Hz | | |
| 13 | 103.5Hz | 28 | 173.8Hz | 43 | 177.3Hz | | |
| 14 | 107.2Hz | 29 | 179.9Hz | 44 | 183.5Hz | | |
| 15 | 110.9Hz | 30 | 186.2Hz | 45 | 189.9Hz | | |

## ・・・・・・・・・・・オプション一覧・・・・・・・・・・・

EBP-60　リチウムイオンバッテリーパック
EDC-122　AC アダプター
EDC-131　シングル充電スタンド
EDC-131A　シングル充電器セット（AC アダプター付属）
EDC-167A　ツイン充電器セット（AC アダプター付属）
EDC-167R　ツイン連結スタンド
EDC-162　連結用 AC アダプター
EME-58　ストレートコードイヤホン　耳かけ型
EME-32A　イヤホンマイク　カナル型
EME-48A　イヤホンマイク　耳かけ型
EME-62A　咽喉イヤホンマイク　カナル型
EME-63A　ヘルメット用ヘッドセット
EME-64A　ヘッドセット
EME-36A　イヤホンマイク　カナル型
EME-59A　イヤホンマイク　耳かけ型
EME-65A　イヤホンマイク　耳かけ型
EMS-62　スピーカーマイク　IP54 相当※
EMS-71　スピーカーマイク　IP67 相当※
EDH-33　シガーケーブル
EDS-14　プラグ変換ケーブル
ESC-62　ソフトケース
EBC-43　ベルトクリップ（ネジ 2 本）
ADUA-97　中継ケーブル

※スピーカーマイクはモード 2 やモード 4 の同時通話ではハウリングが発生するためご使用になれません。交互通話において PTT ホールド、VOX、コールバックの各機能はご使用になれません。

# ・・・・・・ 故障とお考えになる前に ・・・・・・

本機が故障かなと思ったら、まずこちらをお読みください。

| 症 状 | 原 因 | 処 置 |
|---|---|---|
| **電源が入らない。** | 電池の入れ方が間違っている。 | 電池を正しく入れ直してください。 |
| | 電池が消耗している。 | 新しい電池と交換してください。<br>充電池を充電してください。 |
| **音が出ない。<br>受信できない。** | 音量が低すぎる。 | 適切な音量に設定してください。 |
| | 相手とチャンネルが違う。 | 同じチャンネルに合わせてください。 |
| | 相手と距離が離れ過ぎている。 | 通信距離を目安に通信してください。 |
| | グループ番号が違う。 | グループ番号を合わせてください。 |
| | ［PTT］キーが押されている。 | ［PTT］キーを離してください。 |
| **「ザー」という<br>雑音が出る。** | スケルチレベルが低すぎる。 | 適切なスケルチレベルに設定してください。 |
| **送信できない。** | 信号を受信している。 | 信号がなくなってから送信するか、チャンネルを変更してください。 |
| | 通信制限時間を超過している。 | ［PTT］キーを離し 2 秒たってから送信してください。 |
| | PTT オフ機能が働いている。 | セットモードで PTT オフ機能を ON にしてください。 |
| **電池の消耗が早い。** | バッテリーセーブ機能が OFF になっている。 | セットモードでバッテリーセーブ機能を ON にしてください。 |
| | ランプ常灯機能が ON になっている。 | セットモードでランプ常灯機能を OFF にするか、5 秒に設定してください。 |
| **キー操作できない。<br>チャンネルが変わらない。** | キーロックされている。 | キーロックを解除してください。 |
| **充電しない。** | 充電端子が汚れている。 | 充電端子の汚れを拭き取ってください。 |
| | バッテリーが専用品でない。 | バッテリーパック EBP-60 をご使用ください。 |

- 処置を施しても異常が続くときはリセット（初期化）してください。症状が回復する場合があります。
- キー操作を受け付けなくなったときは電池を入れ直すと症状が回復する場合があります。
- 電池が消耗していると、まれに誤動作することがあります。新しい電池に交換してください。

## 生産終了品に対する保守年限

生産終了後も5年間は補修用部品を在庫しています。不測の事態で欠品した場合には保守ができなくなることがありますのでご了承ください。

# ・・・・・・・・・・ 定格 DJ-R200D ・・・・・・・・・・

| | |
|---|---|
| 送受信周波数 | 421.5750 ～ 421.7875MHz、421.8125 ～ 421.9125MHz |
| | 422.0500 ～ 422.1750MHz、422.2000 ～ 422.3000MHz |
| | 440.0250 ～ 440.2375MHz、440.2625 ～ 440.3625MHz |
| 周波数制御チャンネル | 421.8000MHz、440.2500MHz |
| 電波形式 | F3E（FM）、F1D（FSK） |
| 送信出力 | 10mW、1mW |
| 受信感度 | -14dBu以下（12dB　SINAD） |
| 音声出力 | 本体スピーカー 400mW以上、外部出力 80mW以上 |
| 通信方式 | 単信、半複信、複信 |
| 定格電圧 | DC3V ～ 3.7V |
| 外部電源端子 | DC5V ～ 6V　EIAJ 区分2 |
| 消費電流 | 送信時：約 70mA（10mW）、約 65mA（1mW） |
| | 受信定格出力時（50mW）：本体　約 160mA、外部　約 130mA |
| | 受信待ち受け時：約 70mA |
| | バッテリーセーブ時：約 20mA |
| 動作温度範囲 | -10℃～ +50℃（但し充電は 0℃～ +40℃） |
| 寸法 | 高さ 98.8mm ×幅 55.0mm ×厚さ 29.3mm（最薄部 24.0mm）突起物除く |
| | アンテナ長　L：163.5mm　S：36.0mm |
| 重さ | L：122g　S：114g（ベルトクリップ、電池含まず） |

- 仕様、定格は予告なく変更する場合があります。
- 本書の説明用イラストは実物とは字体や形状が異なったり、一部の表示を省略している場合があります。
- 本書の内容を無断転載することは禁止されています。
- 乱丁、落丁はお取り替えいたします。

ALINCO アルインコ株式会社 電子事業部

東 京 支 店 〒103-0027 東京都中央区日本橋2丁目3番4号 日本橋プラザビル14階 TEL.03-3278-5888
大 阪 支 店 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4丁目4番9号 淀屋橋ダイビル13階 TEL.06-7636-2361
福岡営業所 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目13番34号 エコービル2階 TEL.092-473-8034

**アフターサービスに関するお問い合わせは**

**お買い上げの販売店または、フリーダイアル 0120 0120-464-007**

全国どこからでも無料で、サービス窓口につながります。

受付時間／ 10:00～17:00 月曜～金曜（祝祭日及び 12:00～13:00 は除きます）

ホームページ http://www.alinco.co.jp/「電子事業」をご覧ください。

PS0879
FNEJ-NK